

(参考資料1) 2040年の兵庫の暮らしのイメージ

「12の将来像」とその実現のための「12の協働シナリオ」をわかりやすく示すため、めざす将来像が実現したときの2040年の兵庫の暮らしのイメージを、地域類型の視点と多様な県民のライフスタイルから描いた。

- 1 地域類型の視点から見る2040年の兵庫の暮らし
 - (1) 多世代が交流し、国内外から人が集う都市・郊外の豊かな暮らし…参-1
 - (2) とともに支え合い、次世代に引き継ぐ多自然地域の豊かな暮らし…参-5
 - (3) 多様な地域と地域、人と人が交流・連携する姿 ……参-9

- 2 多様な県民のライフスタイルから見る2040年の兵庫の暮らし ……参-11

1 (1)～(3)に描いた暮らしの姿を、年齢、女性など多様な県民のライフスタイルから再構成した。

1

(1) 多世代が交流し、国内外から人が集う

都市・郊外の豊かな暮らし



(単身高齢世帯が増加するなかでの地域の取組)

都市や郊外では単身世帯が約4割を占めるようになった。そのほとんどが高齢者であり、当初は、孤立感からくる不安を感じていた。

しかし、ケアが必要な高齢者の不安は、LSA(生活援助員)による24時間の見守り体制や、元気な高齢者による日常生活支援などの住民同士の支え合いのしくみが充実する中で解消されてきた。終生、自宅で過ごせるようになり、もはや単身で孤立した高齢期という生活像はない。

高齢者は、生活支援や社会人向け教育サービスなど生活に密着した産業や、診療所、グループホームなどの医療・介護サービスが整った、コンパクトで安心できるまちで、ゆとりのある暮らしを送っている。

(ストックを活用した近居・隣居で支え合う家族)

県民が国内外へと活動範囲を広げ、移動型の住まい方が見られる一方で、生活環境に優れた兵庫に根を下ろし、家族で支え合って暮らしたいという希望を持つ人も多い。

こうした家族は、人口が減少し住宅の需給が緩む中で、地域が主体となった優先斡旋などのしくみを利用している。三世代同居は減少するものの、歩いて通える近さに住む“近居”や隣近所に住む“隣居”など、離れていても支え合う住まい方を実現している。

（兵庫らしい生涯健康な暮らし）

さまざまな世代の人々が、地域団体やNPOのプログラムに参加するなどして健康的な生活習慣づくりやスポーツ活動に取り組み、健康でいきいきとした生活を送っている。

病気になっても、高度専門医療機関と地域のかかりつけ医などが連携し、地域の安心を支える質の高い医療基盤が確立されている。高度専門医療機関では、神戸の医療産業の集積と兵庫の科学技術基盤を活用したオーダーメイド型医療も受診できるようになっている。

（空き空間を生かした多世代交流の場）

地域のさまざまな世代が、空き住宅などを地域の食堂やリビングのように活用し、食事をしたり、おしゃべりを楽しんだり、時には悩み事を話し合う場として、集っている。こうしたいわば“広場”は、空き住宅の所有と利用の分離が進むことで実現している。

（交流から生まれる地域のしごと）

地域のさまざまな世代が、地域の“広場”でのコミュニケーションを通じて地域課題への関心を高め、コミュニティの中で日常生活サービスなどの社会貢献をする者や、それをビジネスとして手がける者も出てきた。

他にも、地域づくり活動を支援するしごとや、自治会運営をサポートするNPOの運営、介護や買い物、通院の移動の手助け、放課後の子どもの預かりをはじめとする多彩な活動が行われている。

障害のある人も、空きスペースを活用して障害のある人とない人が一緒に運営するパン屋さんなど、地域の中で増えてきたしごとの場で個性を生かしていきいき働いている。

（地域全体に支えられる子育て）

高齢者だけでなく、子どもたちや子育て中のお父さんやお母さんが、“広場”の心地よさに、集まって来るようになった。子どもの数が少なくなる中で、一緒に遊んだり、悩み事を相談したりすることで、子育て世代だけでなく、地域の人々が一緒になって子どもの成長を見守り育て、地域全体での子育てがより一層進んでいる。

（若い時からの複線型のしごとスタイル）

若者の中には、これまでのように大学新卒で会社に就職するのではなく、地域のしごとに就職する者も増えつつある。地域で課題解決に取り組むしごとの経験を積みながら、地域経営の手腕や業績を買われ、民間企業や行政で働くなど、異なる領域を行き来する多様な働き方が定着し始めている。

（兵庫を支える基幹産業、オンリーワン企業）

鉄鋼や機械などの基幹産業が、高い技術力を生かして高付加価値の素材や環境プラントを開発するなど、成長分野に対応した技術革新に取り組み、成長を支えている。

また、優れた部品・加工技術やノウハウを背景に、世界市場で大きなシェアを持つオンリーワン企業が県内の各地に数多く立地し、世界のサプライチェーンを支えている。

（世界、アジアに貢献する兵庫の技術）

次世代スーパーコンピュータや播磨科学公園都市のX線自由電子レーザーを活用して地域の産業も様変わりした。兵庫発の次世代高性能電池は、充電時間を劇的に短縮すると同時に走行可能距離を格段に伸ばし、世界的な電気自動車の普及を加速化した。

これに加え、発電効率が極めて高い太陽光パネル、気候変動に対応した農業増産技術、難病を克服する創薬・医療技術の開発など、アジアの課題解決に貢献する多くの基盤技術や知識が兵庫から生み出されている。省エネや、高齢者や障害のある人の扱いやすさを追求した製品など、既存技術の徹底改良で生み出されたモノと併せて、兵庫の技術力が存在感を発揮している。

（安全・安心の拠点）

阪神・淡路大震災以来の絶え間ない取組により蓄積された、災害から地域社会を効果的に復興させる知恵を生かし、“HYOGO”はアジアの安全安心の拠点となった。

既に起こった東海・南海・東南海地震も、適切な被害予測、ハード面の備えに加え、子どもの頃からの防災教育や歴史的な経験に基づくハザードマップ、地域ぐるみの共助で被害を最小限に抑え、早いピッチで復興を成し遂げたことに世界が驚嘆したことは記憶に新しい。

（国内外からの人材の集積）

生活支援産業や医療、安全・安心の地域を創る産業が、兵庫の各地域で成長することで、国内外から多彩な人材が集まっている。

外国人県民は、地域での交流プログラムや夏祭りなど伝統行事への参加を通じてコミュニティに受け込み、また、日本の生活や文化に触れる機会を楽しんで、兵庫暮らしの魅力を大いに感じている。まちの標識や医療機関、非常時の情報提供の多言語化も進み、子どもの就学支援ガイダンスなども充実していて、家族で暮らす不安や不便を感じることはない。

兵庫の産業の魅力と生活環境の良さから、国内外の企業の立地も相次ぎ、また、兵庫で学びたい留学生も増えた。創業を支援する資金も国内外から流入し、チャレンジする気風が根づいている。日本の若者の間でも、一頃指摘された内向き思考はなく、どんどん海外に出ていくようになっている。

（クリエイターが集う都市郊外）

国内外のクリエイターやアーティストが、緑豊かで都市とのアクセスに優れた都市郊外に移り住むことが多くなった。クリエイターに関連する仕事も郊外で増え、今では都市と郊外との間の行き来が盛んになっている。

都市から郊外に働きに行く人も増え、一時超高齢化した郊外の人口構成のバランスは改善し、コミュニティに活気が戻ってきた。

（“生産年齢人口”という言葉に意味がない生涯現役社会）

たくさんの元気な高齢者がさまざまな場面で活躍している。企業では、長年の経験や知識を買われ、フルタイムの就業から週2日などゆとりある働き方に変えつつ、継続して勤務し、若者の育成に取り組んでいる。

地域でも、元気な高齢者が、要介護者の生活支援サービスなどの起業に挑戦したり、高齢者の生活を法律面でサポートする市民後見人として従事したりするなど、人生経験や社会的な信用を生かして活躍する人が増えている。

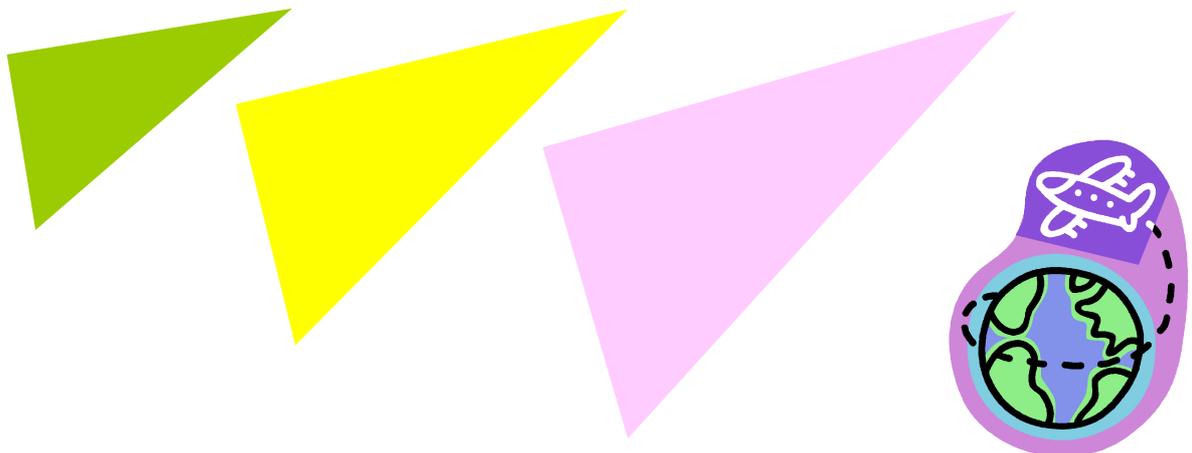
郊外では遊休地を活用した近郊農業が盛んで、その担い手には第二の生きがいとして本格就農を始めた退職後の高齢者なども多い。同じ高齢者の嗜好を研究した特産品開発や、NPOと連携した都市での直売所や宅配などにアイデアを発揮し、販路拡大に取り組んでいる。

（兵庫スタイルの豊かな暮らしとアジア交流圏の形成）

豊かな自然や歴史、文化や、先端科学を生かして活躍できる環境に恵まれ、多彩な人材の集積が進む中で、しごとと生活の両立も急速に広がり、定着している。

こうした兵庫スタイルにあこがれ、新たな定住先として兵庫を選ぶ人が増えている。それに伴い、生まれる子どもの数も増加してきた。人口減少のペースは当初想定したよりも緩やかになっている。

兵庫で生まれたライフスタイルや、多文化が共生するコミュニティ、そして世界とつながるネットワークが、世界から評価されている。同時に、アジアと兵庫の間でさまざまな人、知恵、モノが行き交い、共生していく圏域が生まれつつある。



1 (2) ともに支え合い、次世代に引き継ぐ

多自然地域の豊かな暮らし



(若い世代が移住)

多自然地域の農村では、少子化と若者の都市部への流出などにより、人口減少が進み、空き家や休耕田が目立ってきていた。しかし、農や自然に興味を持つ若い世代が、空き家を活用した親族との近居、知り合い同士での隣居などによって、移り住んでくるようになった。

こうして、UターンやIターンで移住してきた若者は、古民家を改修して暮らすなど、自然や風土を暮らしの中で味わえる豊かさを実感している。

(見守りや減災など支え合う暮らし)

人口減少が進む多自然地域では、高齢化が進み、お互いの安否確認さえ危うくなりつつあったが、地域住民たちが顔なじみや知り合いの声かけに取り組み、また、情報通信技術を活用した地域生活見守りシステムを導入することで、地域で支え合える共助のしくみが構築されてきた。

また、高齢者への聞き取りや歴史的な経験に基づく災害危険箇所のマップ作成、災害時要援護者への共助網の再構築などにより、地域の減災力が高まっている。

(日常生活サービスの確保)

廃校となった小学校の校舎などを活用して、診療所、福祉施設、商店、銀行窓口など生活維持に不可欠なサービスの拠点が、地域住民と行政、企業の連携で確保されている。

日用品や食料品などの宅配サービスも、この拠点を中心に住民の手で運営されており、都市から移住してきた住民も、都市での視点などを生かしながら一緒になって取り組んでいる。

(医療サービスへの不安を解消)

地域の診療所や病院が少なくなり、中心都市の総合病院に集約化されたため、特に高齢者や障害のある人、子どもを持つ親などは、医療サービスに不安を抱いていたが、中心都市へのバスや鉄道などの公共交通が確保され、診療所と総合病院をつなぐ情報通信技術の活用と併せて、適切な医療を受けることができる環境が整備されている。

また、高齢者や傷病者が日頃から情報通信機器を使った健康管理システムを利用できるようになり、かかりつけの医療機関や親族と健康情報を共有することで不安が解消されている。広域的な医療体制も充実し、緊急時には、救急ドクターヘリも利用できるようになっている。

（地域での移動手段の確保）

地域に公共交通網がないところでは、地域が主体的に運営するコミュニティバス会社が移動手段を担っている。バスの運行コースは、病院前や商店街、まちなかの循環など、暮らしのニーズを踏まえて地域住民たちで決めているため、運転免許を返納した高齢者も不便さを感じていない。また、こうした地域での移動手段を補完するため、地元企業も、社員や顧客用の送迎バスをボランティアで地域住民向けに運行している。

子どもの減少で学校の統合が相次ぎ、小中学生の通学距離は長くなる傾向にあるが、地域運営のコミュニティバスとの共用によるスクールバスで安全に通学している。

（地域ならではの子育て環境）

子どもたちは、学校の授業で多様な価値観をかん養し、社会との関わり方を学んでいる。また、地域住民との交流学習も盛んで、高齢者やNPOなどから、伝統的な遊び体験や地域の歴史、食文化などを学び、地域への愛着が自然と育まれている。

こうした交流の影響で、子どもたちと地域住民との距離が縮まり、地域住民が子どもたちを見守り育てる好循環が生まれている。

（村移りと広域的なむらづくり）

人の減少や偏在により維持が困難になった集落の中には、住民自身の選択で、近隣集落へ集落ごと村移りしたところもある。

一人だけの移住では不安だったが、集落の知人たちとともに移住したことで、移住先の集落でも地域のつながりが築きやすく、安心を得られた。旧集落は農家民宿や滞在型農園などとして活用されており、移住者のうち何人かは旧集落への通り農を行っている。

また、近隣の集落同士で連携し、村移り後の空き空間も活用し、広域的に村の機能を維持しようとする動きも広がっている。住民と地域外の企業とが提携して、バイオマスや小水力、ソーラー発電所をつくり、食とエネルギーの自立が高まっている。

（獣害対策も広域的に対応）

高齢化や人手不足に伴い、奥山や里山の管理が行き届かなくなり、シカ、イノシシなどによる農産物への獣害が深刻化した。集落の住民たちは、獣害など同様の課題を抱える隣県の村とも連携して、山すその伐木に取り組むなど、野生動物との緩衝帯の整備を広域的に実施して、農作物被害を減少させることに成功した。

（地域資源を生かした広域的なツーリズムの創造）

地域資源の価値を再認識する動きが広がっている。はじめは、地域の有志が集まり、インターネットやイベントを通じて、古道を歩くフットパスなどの情報発信をしていたが、今では、旅行代理店とも連携が生まれ、県内や隣県からの歴史スポットを巡るツーリズムが盛んになり、地域ににぎわいが戻ってきている。

（高齢者の知恵と経験の若者への伝承による農林水産業の活性化）

集落の高齢者が、長年の技術や経験を次世代に伝承する場や、既存の農林漁業者から実践的な技術を学ぶことができる体験塾、起業を支援する中間支援NPOの支えもあり、農林水産業にチャレンジする若者が増えている。若者たちは、高齢者の経験と自らのアイデアを融合させながら、生産性の向上や、農漁村のにぎわいづくりに貢献している。

次世代の人材の育成が進み、農林水産業の担い手が厚みを増す中で、農の6次化や販売網の開拓を手がける人材も育ち、兵庫全体で食の自給力、供給力が高まってきている。

（放棄林の再生と新しい自然エネルギーの活用）

多自然地域に暮らす若者が増えるとともに、森林資源の魅力と適切な管理の必要性に気づき、森林管理ボランティアなどに参加する層が増えている。都市で建築設計を営む技術者が、放棄林の再生と木材の県産県消に取り組むなど、都市と農村をつなぐ動きも広がっている。

良好な県産木材を生かした家づくりも人気となり、間伐や廃材からできる木チップは地域のバイオマス発電に使われている。

（住民が運営する地域のしごと）

さまざまな世代の女性たちが集まり、近所の公民館兼食品加工場で働きながら、地域の伝統的な加工食品の製法を、次世代の女性たちに引き継いでいる。ここで作られた加工食品は特産品として販売しているほか、高齢単身者向けの弁当宅配サービスも運営している。配達の際には、高齢者の見守り活動にも取り組み、地域の安心づくりに貢献している。

また、先祖伝来の家に暮らす夫婦は、自宅を田舎暮らし体験ができる民宿に改造し、手作りの温かいもてなしで人気を得ている。最近では、宿泊客により深く地域のことを知ってもらおうと、住民たちとともに、地域の歴史、風土の勉強会を始めた。

（多自然地域で成長するオンリーワン企業）

精密機器分野などのオンリーワン企業が、災害や大規模事故に対する危機管理やリスク分散の観点から、研究拠点や生産施設を都市から多自然地域に移転させるケースが増えている。集落からもそうした企業に通勤する若者も多く、地域の雇用と経済に好影響を与えている。

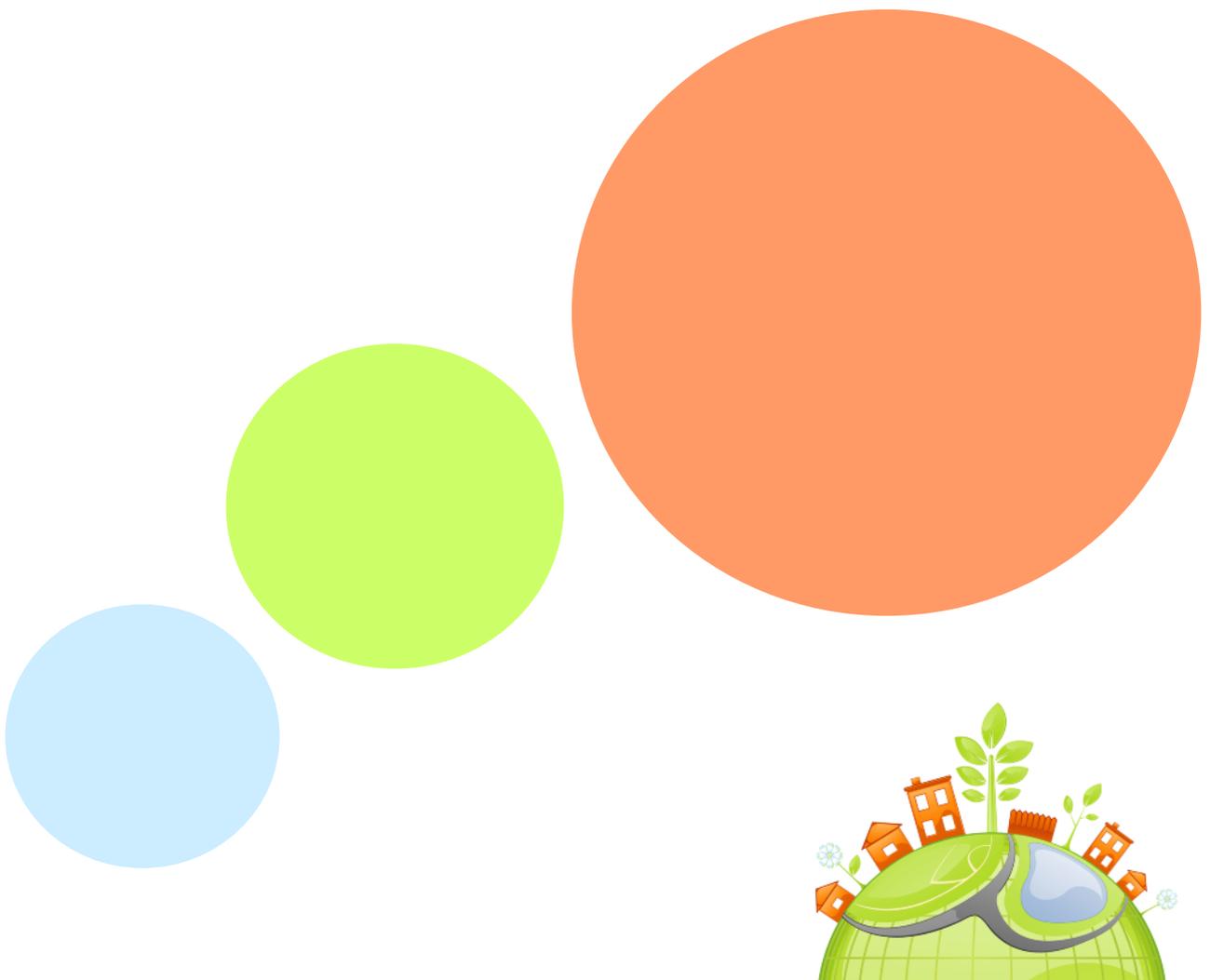
（外部との連携が集落の再生を後押し）

都市部のNPOなどが、集落と連携して農漁村体験に取り組んでいる。農村地域では、田畑のオーナー制や農業体験、漁村地域では養殖オーナーなどが人気であり、都市に暮らす人たちも、多自然地域を身近に感じるようになってきている。夏休みには、就農体験や地引網体験に訪れた親子連れなどが民家に宿泊し、夏祭りに一緒に参加するなど、村のにぎわいが取り戻されている。

（アジアとつながる多自然地域）

ソーシャルネットワークサービス（SNS）など、情報通信技術を活用したコミュニケーションのグローバル化により、集落単体で世界に取組を発信することが容易になっている。兵庫の地域再生・農業再生の取組、安全な県産品づくりが、国内をはじめ、アジアなどの海外の注目を集め、ノウハウを学びに来る外国人も多い。

地域に暮らす人々の間にも、集落で育んできた技術やノウハウをアジアや世界中の人々と共有し、人や知恵が交わる新しい共生圏をつくらうという意識が生まれている。



1

(3) 多様な地域と地域、人と人が

交流・連携する姿



(まちからむらへ)

人口減少が進み、県内の高齢化率が4割に近づく中で、ある集落では生活機能の低下や耕作放棄地の拡大、荒廃する森林の維持管理など、さまざまな苦勞を抱えていた。

しかし、都市と集落を結ぶ社会資本の整備が進み、集落やNPO、企業、行政などの連携で、地域人材の育成や就農・集落居住体験、都市での県産農林水産品の直売など、都市と集落の産業をマッチングする機能が整うとともに、それぞれの地域の良さや人材を結びつけながら、地域の再生に取り組む人が増えている。

(高齢者を主役にして生まれる人の交流)

都市の住居を生きつつ集落に通い、週末農業や森林づくりに生きがいを見だし、菜園付住宅や滞在型の市民農園（クラインガルテン）での二地域居住を楽しむなど、都市からの集落への人の流れが生まれている。

ある退職後の高齢者は、多自然地域の集落再生に取り組んでいるNPOによる募集を通じて、クラインガルテンに入居した。集落の住民たちが丁寧にノウハウを教えてくれたため、やりがいを感じている。

今では、新旧の住民の交流が深まり、むらづくり、行事の運営などにも一緒に取り組んでいる。都市の高齢者をターゲットにした地場産業の新しい販売戦略など、都市住民の視点からのアイデアも取り入れながら、持続性のある集落が実現しつつある。

(多自然地域に移転する企業の増加と多世代の交流拡大)

自然豊かな立地環境や、災害に備えたりリスク分散などのため、多自然地域に移転する企業や工場が増えている。企業の研究施設や大学のサテライトも作られ、若い学生や技術者などが集落に移住する例も増えている。

ある学生は、多自然地域に居住して研究活動に取り組みながら、休日には集落に入り、住民と一緒にむらづくりに励んでいる。

(都市と農漁村で交わりながら働く)

都市と集落の交流の広がりや、人々の働き方にも変化をもたらしている。例えば、デザイン、ソフトウェア、設計、ライターなど創造的な分野で、情報通信技術を生かしつつ、集落に拠点を置いて、のびのびと働く人が増え、伝統工芸とファッションのコラボレーションなど、地域資源に新しい光を当てた商品を生み出している。

また、壮年層の中には、サラリーマン生活を早めに切り上げて農家民宿を営んだり、地元の食材を生かしたレストランを開業する人が増えるなど、ライフスタイルに合わせた住まい選びが定着している。

（地域課題を解決するビジネスの活性化）

都市でのノウハウを生かして、集落の課題に取り組むNPOや企業も生まれている。

あるNPOでは、自治会運営のノウハウを生かしながら、集落の住民と相談しつつ、集落運営のサポートに取り組んでいる。

また、生活支援、医療・介護などを広域で担いながら、一人ひとりのきめ細やかなニーズに寄り添うサービスがビジネスとして成長し、集落の生活機能を支えている。

（上下流連携で共に守る豊かな森林・河川・海）

河川の上流地域では、高齢化による人手不足で森林の管理が困難になっていたが、下流地域の住民との交流が深まる中で、共に流域の自然環境を守り、災害を防ぐ意識が共有されるようになった。都市住民や事業者、漁業従事者などが、上流地域の住民と協力して森林の間伐などに取り組むことで、川で結ばれた豊かな森林と漁場を保全するとともに、下流での洪水などの自然災害を抑えるしくみが生まれている。

（安全安心の先進地になる多自然地域）

集落では安全安心な食を求める消費者のニーズに応えた県産品づくりが広がり、都市で直売されている。このような「県産県消」の広がりにより、農林水産業は地域の持続を支える成長産業に生まれ変わっている。

また、多自然地域にバイオマス、ソーラー、水力など再生可能エネルギーの拠点が作られ、エネルギーの自給自足を実現する先進地になっている。さらに、都市へのエネルギー供給や、研究開発などを通じて、地域間のつながりが増している。

（県域を越えて補い合う暮らし）

地域間のつながりが拡大し、より広範囲の、県域を越えた補い合いが生まれている。企業誘致や就業支援に共同で取り組む市町村が増え、住民がアイデアを出して、同じテーマの地域資源をつなぐツーリズムを生み出すなど、都市と集落それぞれの地域力を高めている。

（地域から世界につながる）

地域資源をつなぐツーリズムの広がりで、都市と集落を長期間周遊しながら滞在する外国人観光客が増え、農家民宿などを運営する住民との交流が深まっている。

また、国際機関の集積を生かしたコーディネート機能を活用して、同じ課題を抱えたアジアなどとの交流、連携が深まり、国際的なスケールで活躍する人材が多数輩出されている。

都市と集落がつながりながら共に元気を生む事例は、兵庫ならではの取組として、人口の減少や偏在が進みはじめたアジアから注目されている。

2

多様な県民のライフスタイルから見る

2040年の兵庫の暮らし



（家族・地域の絆の中でたくましく育つ子ども）

バランスの取れた仕事と生活の充実が進み、家族で過ごす機会が増え、家族の絆を実感できる子どもが増えている。また、子どもたちが日々地域の中で生き生き遊び、多世代と交流しながらさまざまな体験ができる機会が増え、多様性を学んだり、身に付けたりしている。

学校と地域の連携により、子どもが、高齢者やNPOなどによる伝統的な遊び体験や、祭りなどへの参加を通じ、地域の歴史、食文化などに触れ、地域への愛着や誇りを自然に育んでいる。

また、地域での職業体験学習や海外体験などを通じて、地域でのしごとや海外へのチャレンジなど、具体的な将来の目標を持ち、さらに自分の力で課題を見つけ出し、解決できる力を身につけながら、たくましく成長している。

（進取の気性で次代を担う若者）

自然豊かな暮らしや農林水産業、地域資源の活用に興味を持つ若者が増え、多自然地域に立地するオンリーワン企業や再生可能エネルギーの拠点などでの就業をめざして集落に移住するなど、従来の価値観にとらわれない主体的な生き方の選択ができるようになっている。

若者たちの間に、地域づくりや社会貢献型のしごとへの就業、海外へのチャレンジなど進取の気性が広がるとともに、ボランティアやインターンシップなどの活動が定着し、それらの活動の経験が大学入学の資格となるなど、社会で適正に評価されるしくみが整うことで、将来への希望が生まれている。兵庫が国内外の多彩な人材が集まる“アジアの人材育成拠点”となり、しごとと生活が両立した“兵庫スタイル”の豊かな暮らしが、世界の注目を集めている。

（多様なライフスタイルの中で生きがいを実現する壮年層）

兵庫県がものづくりを支える知の拠点“HYOGO”としての役割を果たす中、壮年の人々は、世代間交流から生まれる地域のしごとや、主体的な人生設計に基づく産業の中核として活躍している。同時に、多様就業型ワークシェアリングなど、ライフスタイルに応じた多様な働き方が普及する中で、しごとと生活の両立を果たしている。

また、民間企業や行政、NPO、就農、地域経営など異なる領域を行き来する複線型のライフスタイルが定着し、多自然地域での広域的なむらづくりに参画したり、都市での自然保護活動に参加するなど、地域づくり活動の新たな担い手として、さまざまな場面で活躍している。

（生涯現役で自立し元気に暮らす高齢者）

元気な高齢者が、経験を生かして、地域づくりや社会貢献、ものづくりや農林水産業などの分野で活躍し、もう“生産年齢人口”という言葉は使われていない。都市と集落の二地域居住や週末農業などを通じて、次の生きがいを見いだす高齢者も多い。

都市や都市郊外に暮らす高齢者は、介護が必要なときは、地域の小規模多機能型サービス拠点のサポートを受けながら、住み慣れた自宅で過ごせるようになっている。また、多自然地域の高齢者は、救急ドクターヘリ、コミュニティバスなども活用しながら、必要なときに適切な医療機関を受診できる。

単身世帯の増加などから多くの高齢者が感じていた将来への不安は、地域住民による見守りなど、共助のしくみの中で解消されてきた。地域に関わらず、情報通信技術も活用した医療システムの革新により、兵庫らしい健康な暮らしが実現している。

（障害の有無にかかわらず個性を生かして活躍）

地域の中で、特例子会社制度などを活用した、働きやすいしごとの場が増え、障害のある人たちも、個性を生かしながら地域で活躍している。また、こうしたしごとの創造に取り組むNPOや企業も増えている。

また、兵庫発のものづくり技術を生かしたユニバーサルデザイン製品が多数生みだされ、移動が困難な人たちも、コンパクトでバリアのないまちで、暮らしやすさを実感している。

（安心してしごとと育児を両立しさまざまな場で能力を発揮する女性）

性別にかかわらず、能力を生かして働くことができる環境が整い、さまざまな職場や地域づくり活動で女性が活躍している。企業などによる複線型のライフスタイルづくりの取組が社会的に評価されるようになり、育児期間中のキャリアアップや、育児がひと段落した女性が再びしごとで活躍できる社会が実現している。

少子化の中で、若い夫婦世代が子育てに不安を感じることもあったが、今では性別にかかわらず育児休暇を取得しやすくなるなど男性の育児参加が進み、また地域ぐるみで子どもを見守るしくみができていることから、安心して子育てとしごとを両立できている。

また、多世代の女性たちが、商店街の空き空間などを利用して、特産品づくりや、高齢単身者向けの弁当宅配サービス、高齢者の見守り活動など、地域のしごとに取り組み、地域の安心づくりにも貢献している。

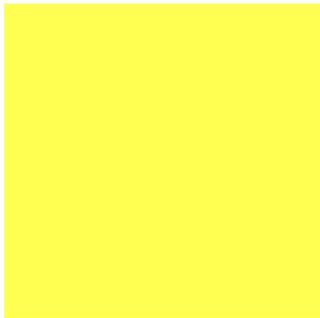
(兵庫に惹かれ、ともに地域社会に貢献する外国人県民)

ユニバーサル化が徹底された標識案内、多言語対応の医療機関など、外国人県民にも暮らしやすいまちが実現している。

ものづくりやバイオ、環境・エネルギー技術を学ぶために、多くの留学生が訪れ、空き住宅やルームシェアの斡旋などに取り組む大学や企業、NPOの手厚い支援を活用している。中小企業が求める人材のマッチングを生かし、兵庫にしごとの場を見つける留学生も多い。

また、外資系企業の社員や、技術者、研究者の中には、外国人県民のための教育環境や、地域住民による日本語教室などが充実し、子どもの教育面での不安も解消されていることから、兵庫に住み続けることを選択する人々が増えている。

地域ぐるみで取り組む多文化共生が進み、外国人県民も、地域づくり活動にも積極的に参画するなど、地域社会の一員として貢献している。







(参考資料2) 地域ビジョン改訂版の概要

地域ビジョンは、それぞれの地域の歴史、文化、風土、住民の意識などを反映し、個性豊かな将来像を描いている。

全県ビジョンと同じく、策定から10年を経て、その後生じた地域の変化などを踏まえながら、地域住民が自らの将来像を描き、その実現に向けて主体的に取り組む指針として改訂された「地域ビジョン」の概要をとりまとめた。

1	神戸地域	参-16
2	阪神地域	参-18
3	東播磨地域	参-20
4	北播磨地域	参-22
5	中播磨地域	参-24
6	西播磨地域	参-26
7	但馬地域	参-28
8	丹波地域	参-30
9	淡路地域	参-32

1 神戸地域ビジョン ～「楽しいまち・神戸」の実現に向けて～

1 神戸地域の魅力と課題

(1) 私たち一人ひとりが抱く神戸の魅力

異国情緒あふれる豊富な文化的蓄積や海と山の豊かな自然に恵まれている。
阪神・淡路大震災の経験等をふまえたボランティア活動・まちづくり活動等が地域の人々によって育まれている。
生協活動や消費者活動等、先導性のある取組が地域の人々によってなされている。

これらの魅力をより神戸らしい魅力として高め・発信し、もっと住みやすく・活力あるまちにできると考えます。

(2) 神戸の魅力を高め、もっと住みよいまちとするための課題

今後、人口の偏在化（人口が増加する区や減少する区の混在）や高齢化の進展が見込まれ、これらに対応した地域づくりや子育て環境の整備等、地域力の強化に取り組むことが求められる。

地球温暖化が進むなか、神戸で開催されたG8環境大臣会合等を通じて高まった循環型の地域構造やライフスタイルづくりへの意識を実践へとつないでいくことが求められる。

六甲山麓の自然環境の保全と活用や都市農業の推進等、自然と共生した暮らしや地域づくりが求められる。

兵庫運河や異人館等の歴史・文化資源を活かした地域の活性化、ウォーターフロントへの都市機能の導入等、“みなとまち神戸”の魅力を高める新たな賑わいづくりが求められる。

阪神・淡路大震災やグローバル化の影響で、港湾機能の優位性を軸とした経済活動が停滞するなど、地域間競争力が低下。阪神港(大阪港・神戸港)の国際コンテナ戦略港湾としての整備等の動きも捉えながら、県下の牽引役として次世代産業等を育むことが求められる。

次世代スーパーコンピュータ等を活かしつつ、医療産業都市構想のいっそうの推進を図るなど、人・もの・情報の交流・融合を進め、地域の活力を高めていくことが求められる。

2 神戸地域の将来像 「楽しいまち・神戸」をめざそう

(1) 地域の将来像 めざすべき神戸地域の将来像を提案

【夢提案1】：人々が集い、喜びと感動が共有できる「楽しいまち・神戸」をめざそう。
阪神・淡路大震災の困難な状況を乗り越えていくなかで、何かが達成できた時の「楽しさ」を経験。こうした経験を受け継ぎ、地域づくりの目標とする。

(2) 地域のめざすべき都市像 将来像を実現するために求められる都市づくりの方向性を提案

【夢提案2】：

『誰もが主役になれるまち - 市民自律都市・神戸 』
市民自律のもと、誰もが得意な分野で主役になれるまちをめざす。

『世界に挑戦できるまち - フロンティア都市・神戸 』
未開拓の分野に果敢に挑戦し、世界に通用する多文化共生都市として、日本と県下各地の未来を先導するまちをめざす。

『感動を分かち合い、癒されるまち - コミュニケーション都市・神戸 』
人の心に感じ響き、自然の豊かさと助け合うコミュニティに心安らぐまちをめざす。

3 実現のプロセス 楽しもう 神戸

(1) 実現のプロセス1 地域の将来像の実現に向けた市民社会のあり方や地域づくりの方向性を提案

- 【夢提案 3】: 歴史的な市民活動の蓄積をふまえ、自律した市民による社会を築こう。
- 【夢提案 4】: コミュニケーション・チャンネルを広げ、人と人との助け合い、他地域・世界とのつながりを深めよう。
- 【夢提案 5】: 情報・教育・支え合う仕組みなど、自律のための社会的な基盤を強化し、活用しよう。
- 【夢提案 6】: 豊かな文化が息づく、生活するまちの魅力を高めよう。
- 【夢提案 7】: 様々な担い手が連携して、複雑で多岐にわたる「コミュニティ」の課題に取り組もう。
- 【夢提案 8】: 地域の自律と連携を担う組織と仕組み（神戸モデル）づくりを進めよう。

(2) 実現のプロセス2 地域の将来像を実現するために求められる市民の具体的な取組について提案

安心・安全な神戸の暮らしづくり

- 【夢提案 9】: 災害・犯罪等から暮らしを守る - 安心・安全なまち 神戸をつくりましょう。
- 【夢提案 10】: 支援を必要とする人たちが安心・健やかに生きがいを持って暮らせるまち 神戸をつくりましょう。

次代を担う神戸の人づくり

- 【夢提案 11】: 神戸の子ども・青少年を健やかに育て・見守りましょう。

神戸の自然と融合した循環型の社会づくり

- 【夢提案 12】: 「農」と結びあえるまち - 「農都・神戸」を築きましょう。
- 【夢提案 13】: 循環型のライフスタイルづくりを神戸から進めましょう。
- 【夢提案 14】: 自然との共生のシンボル 私たちの「六甲山」を活かしましょう。

神戸らしいグローバルな魅力づくり

- 【夢提案 15】: 神戸らしいグローバルな魅力を育て、発信しましょう。

神戸の強みを活かした地域経済の活力づくり

- 【夢提案 16】: 神戸経済の活性化にチャレンジしましょう。

神戸の魅力を活かした多彩な交流活動を展開し、ビジョンの実現に向けた活動を地域へと広げていく。
神戸ゆめまつり
の実施等

4 神戸地域ビジョンの実現に向けて

(1) 市民の役割 ビジョンの実現に向けた市民の役割を整理

住民（生活者）

一人ひとりが社会の一員として行動し、地域コミュニティ等にも主体的に参画することが求められる。

地域団体等

地域に密着したきめ細かなサービスの提供等、地域団体等が持つ特性を活かし、よりよい地域づくりを進めることが求められる。また、新しい「公」領域の活動の担い手としても期待される。

企業

地域の一員として地域経済の活性化や雇用の創出等に取り組むほか、社会貢献活動等を通じて地域の発展に貢献することが求められる。また、新しい「公」領域の活動を担うことも期待される。

学校

学校での学びや社会体験等を通じ、若者が地域での活動に参画する等、地域力強化につながる取組を進めることが求められる。また、学校が持つ人材・施設等を地域へと還元することも期待される。

(2) 行政への提案 ビジョンの実現に向けた行政への提案

行政の側でも、市民と向き合うスタンスを転換するとともに、プロセスの重視や民の活力を活かすなど、参画協働型行政の推進をめざして取組を進めていくことが求められる。

2 阪神市民文化社会ビジョン 「新しい公」の発展のために

1 地域特性と背景

(1) 地域特性

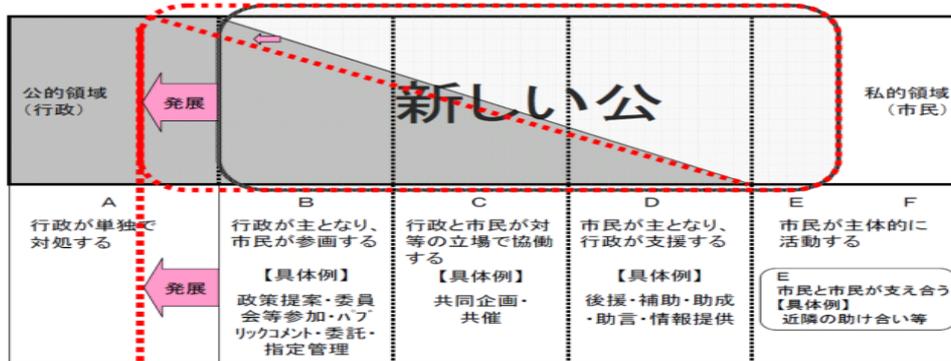
市民が主導する「阪神市民文化」の風土、自然環境と都市基盤が共生する生活空間、モノづくり産業の集積、都市農業・都市近郊農業の発達

(2) 背景

地域経済構造の変化(モノづくり産業を取り巻く環境の変化、第三次産業のウエート増)、都市構造の変化(既存商店街の空洞化、工場跡地や遊休地の増加) 持続可能な環境優先社会への転換(里山・里川・里浜の保全・活用等)、高齢化の進展、子育て・青少年問題の複雑化、コミュニティの新たな展開(地縁型コミュニティに加え、ネットワーク型の重層的なコミュニティ活動を展開) 等

2 基本理念：「市民主体の幅広い社会経済活動を展開する阪神市民文化社会の創造」

多様で个性的かつ自律性にあふれた市民が「新しい公」の領域を担いつつ、行政がこれを支援する枠組みのなかで、市民主体の幅広い社会経済活動を展開する「阪神市民文化社会の創造」をめざす。



3 行動目標 (将来像) < 県民に4つの行動目標を提示 >

(1) 多様で个性的なライフスタイルを育むことができる社会をつくる

< 個性を伸ばす >

文化施設等を核として、芸術文化を広げる
山、海、川、運河やスポーツ施設等生かし、スポーツを広げる
地域づくり活動やライフスタイルを支える生涯学習を展開する
地域とのふれあいのなかで、子どもの個性を認め能力を伸ばす
国際社会で能力を発揮する若者等を支援する

< 社会に参画する >

誰もが参加しやすい地域づくり活動を進める
地域のニーズにこたえるNPO等の団体を育成・支援する

< つながりを広げ、支える >

多文化が共生し、世界に開かれたまちをつくる
地域づくり活動やライフスタイルを広げる交流を進め、支える仕組みをつくる

(2) 自律と協働による温かいコミュニティをつくる

< 生き生きと活動する環境をつくる >

安心して子どもを生み、健やかに育てる環境をつくる
自然や人、地域とのふれあいを通して、青少年を育成する
年齢や障がいを乗り越えてパートナーシップを築く

ユニバーサルデザインノ生活空間をつくる

元気な高齢者等の活動や事業を広げる

人権を尊重し、男女共同参画社会を実現させる

< 安全・安心なコミュニティをつくる >

コミュニティでの健康福祉対策を充実させる

自主防災・減災活動を充実させる

< 市民の参画と協働を推進する >

行政と協働による地域づくりを進める

(3) 自然と豊かに調和した安全・快適な都市環境を創造する

- < 地域の自然や環境を学び、守り育てる >
 - 自然環境への理解を深める
 - 海浜や河川等の水辺を再生し、潤いのある都市空間をつくる
 - 六甲・北摂連山の自然を生かし、憩いの場をつくる
 - 豊かな自然のなかで息づく生物多様性を保全する
- < 地球にやさしく、持続可能な都市環境をつくる >
 - 地球環境にやさしいライフスタイルに転換する
 - 良好な居住環境を維持・充実させる
 - 中心市街地の機能を向上させる
 - 環境に配慮した交通手段の利用を進める
 - 安全・安心なまちをつくる

(4) 豊かさにとぎわいを創出する新たな阪神経済を展開する

- < 産業を守り、育てる >
 - 地場産業や特産業等を振興する
 - にぎわいのある商業ゾーンをつくる
 - 農山村の持続性を確保する
 - 安全で安心な生鮮食料品の生産を行い、市民農園等の交流機能を持つ都市(近郊)農業を振興する
- < 地域資源を生かす >
 - 地域の魅力に親しむツーリズムを振興する
 - 芸術文化・スポーツ等を生かした産業を振興する
- < 市民力を生かす >
 - 地域のニーズを事業化するコミュニティビジネス等を支援する

4 地域ビジョンの実現に向けて

(1) シンボルプロジェクトの推進

阪神南地域：「阪神なぎさ回廊プロジェクト」

海と都市が接する「なぎさ」を阪神南地域の歴史、現在、未来のシンボルとして捉え、自然と都市の再生を図る環境先進都市づくりを進める。

阪神北地域：「地域見本市」

阪神北地域の魅力の再発見を通じて地域への愛着を深めるとともに、地域課題に主体的に対応する活動の担い手を発掘する。

(2) 今後の取り組み方向<新たな地域づくりシステムの構築>

地域づくり活動を支えるシステムづくり

- 地域の人材活用・育成
- 地域の既存施設の活用と財政基盤の強化
- 情報の交流
- 地域づくり活動のコーディネート

「新しい公」の担い手づくり

- 住民・事業者
 - 地域コミュニティを支えていく市民社会の一員としての役割と責任を再認識し、地域の課題解決をめざす地域づくり活動への積極的な参加とともに支援の輪を築く。
- 団体・NPO等
 - 各専門分野の活動を基礎として、地域づくり活動の担い手になるとともに、新たな団体の育成支援などにより、団体間のネットワークの構築を進める。
- 行政
 - 地域づくり活動の場の提供や、市民発案が施策に反映する新たな仕組みの検討など、地域づくり活動を展開するための環境整備を行うとともに、民間活力による効率的な行政運営を行う。

3 東播磨地域ビジョン ～水辺・ものづくりのまちで生きる～

<改訂の背景>

人口減少社会へ突入・世帯規模の縮小 / 生活全般にわたる安全安心への強い希求 / 社会的自立の促進 / インターネット利用環境の進化 / 地球温暖化防止・資源循環への関心の高まり 等

<改訂ビジョンの理念・方向性>

【理念】水辺・ものづくりのまちで生きる

「水辺」と「ものづくり」を地域特性とした東播磨で、生き生きと暮らし、育ち、学び、働ける

営みの源となる「水辺」

東播磨の豊かな水辺の暮らしは、先人たちが、水を介した地域間の連携を図ることにより、守られてきており、人の営みの源となる水辺とこれをつないで営みをささえる水のネットワークは、東播磨づくりの象徴である。

活力を生み出す「ものづくり」

東播磨のものづくりは、人・ものの特性と価値ある情報を駆使して技術力を高め、人々の豊かな生活をささえるとともに、人・もの・情報の交流を促し、農林水産業や文化、ライフスタイルの分野についても、知恵と活力を生み出し、にぎわいを創出する原動力となっている。

【方向性】 豊かな水辺を守り、生かす東播磨づくり
人・もの・情報が交流し、にぎわう東播磨づくり

<4つの将来像>

安らぎとぬくもりを感じられる

心地いいまち

自分らしさと生きがいを感じられる

楽しいまち

自然と文化の豊かさを感じられる

美しいまち

誇りと可能性を感じられる

力強いまち

(1) 心地いいまち【暮らしづくり】

人が、安らぎとぬくもりを感じながら、寄り添い、ささえあえる「心地いいまち」をめざそう
安全安心を実感できる
顔が見える関係を築き、お互いが寄り添い、ささえあえる自立して、明るく、健康に生活できる
穏やかな気候と便利さを生かして、ゆとりをもって暮らせる

(2) 楽しいまち【人づくり】

人が、自分らしさと生きがいを感じながら、お互いを認め、高めあえる「楽しいまち」をめざそう
次代の担い手となる若い力を育て、ともに成長できる人の多様な考え方、生き方を尊重し、応援できる
自らの生きる意義を考え、生きがいを持てる
多彩な知恵とアイデアが交わり、お互いを高め、楽しさを創造できる

(3) 美しいまち【まちづくり】

人が、自然と文化の豊かさを感じながら、資源を生かし、循環できる「美しいまち」をめざそう
「循環する水の路」を愛しみ、流域文化の高さと美しさを体感できる
人と自然が共生し、生態系を保全できる
持続可能な循環型地域のモデルとなれる
地球と未来にやさしく、低炭素型社会を構築できる

(4) 力強いまち【活力づくり】

人が、誇りと可能性を感じながら、地域の底力を発揮し、魅了できる「力強いまち」をめざそう
生活を豊かにする質の高い「もの・サービス」を創造できる
豊かな農林水産業と食文化を展開できる
交流を促す基盤と拠点を整備し、多彩なネットワークを構築できる
人・もの・情報が交流し、魅力とにぎわいを生み出せる

<実現に向けた人・情報・組織・仕組みの新たな提案>

- <ポイント1> 一人ひとりが地域づくりに参画するための基本的認識・技術を習得すること
- <ポイント2> 情報とコミュニケーション手段を使いこなし、有意義なつながりを見いだすこと
- <ポイント3> 活動の「事業」化に向け、実施体制を整備すること
- <ポイント4> コーディネート機能を有する団体の育成強化を図ること

< 将来像を実現するための取組・アイデアの例 >

実現するための参画と協働による取組

県民が主体となった取組のアイデア(例)

心地いまち

- 取組 1
地域ぐるみの活動により、きずなを強め、安全安心を実感できる取組を広げる
- 取組 2
人と人のつながりでささえあい、専門機関との連携により自立を促す
- 取組 3
主体的な健康づくりの推進と安心できる地域医療体制を確保する
- 取組 4
住民主体のまちなみづくりと便利で快適な住みよい暮らしを提案する

- ・防犯に配慮した基盤整備とパトロール強化の組み合わせによる体感治安の向上への取組
- ・子育ての情報交換の場づくりや男性の育児参加を促すまちの子育て応援プロジェクトの展開
- ・若年期からの生活習慣病予防、中高年の食の自立等を実践できる栄養講座
- ・成熟社会にふさわしく、多様な交通手段をかしこく利用することをめざす取組の推進

楽しいまち

- 取組 5
若者の個性と夢を育むとともに、大人も学べる機会を充実させる
- 取組 6
いろいろな考え方、生き方を理解し、応援する環境をつくる
- 取組 7
生涯充実をめざし、培ってきた知識、技術及び経験を地域のために還元する
- 取組 8
交流チャンネルと意欲ある人材の開拓により、新しい地域づくり活動を呼び起こす

- ・子どもが将来の夢を描き、その実現をめざす「子どもドリームプラン」の推進
- ・道路、歩道が車いす利用者、視覚障害者に使いやすいかどうかを調査する「まち点検」の実施
- ・伝統文化・昔遊びの伝承と担い手養成、企業・教育機関OB等による科学技術教室の開催
- ・「東播磨生活創造センター」を活用した先導的な地域づくり活動の展開

美しいまち

- 取組 9
いなみ野ため池ミュージアムを核としたプロジェクトを推進する
- 取組 10
豊かな水辺地域の生態系を学び、環境保全活動に取り組む
- 取組 11
資源の循環を促し、環境への負荷を低減する活動に取り組む
- 取組 12
地球にやさしい生活様式を提案して、新しい経済活動に取り組む

- ・様々な分野の地域づくり活動のネットワーク化を推進する「循環する水の路」プロジェクト
- ・親しみが感じられる美しい里浜づくりにむけた環境保全、環境体験、調査研究の推進
- ・伐採竹や池干しにより駆除した外来動植物の資源化(肥料等)等の里の資源の循環活用
- ・市街地におけるペロタクシーの運行など低炭素な移動手段の導入に関する調査研究

力強いまち

- 取組 13
産学公民、異業種間の連携により、ものづくりの活性化と地域密着型の起業を推進する
- 取組 14
担い手の育成・確保に加え、豊かな農林水産資源を守り、地産地消を推進する
- 取組 15
地域の新しい交流拠点や自転車を活用したツーリズムルートを提案する
- 取組 16
東播磨の新しい魅力の再発見とにぎわいづくりに取り組む

- ・住民、ものづくり企業と試験研究機関等による東播磨ブランド製品の共同開発
- ・地域住民との協働による耕作放棄地の活用により、豊かな農地を守り、楽農生活を推進
- ・地域内での自転車共有・利用システムの整備と広域的運用の推進
- ・ツーリズム資源の再発見とネットワーク化による東播磨魅力づくりプロジェクトの展開

4 北播磨地域ビジョン 2020 “ひょうごのハートランド”をめざして

1 点検・見直し

背景

- ・ 少子・高齢化など時代潮流の変化は、ビジョン策定時の想定を上回る早さで変貌、これに伴う様々な地域課題が顕在化
- ・ 地域づくり活動の中で、目指すべき北播磨の姿や新たに対応すべき課題が明確化

視点

- ・ 北播磨の魅力ある地域資源、構造、交通、気候、風土などを十分活かし、「北播磨らしさ」を発揮させる。
- ・ すべての地域住民が将来像・目標を共有し、その達成に向け、活動を推進していくために、様々な主体の取組を促す。

2 将来像

ひょうごのハートランド

ハートランドとは、
中原の地 中央の地、豊かな地 動と静の交わる場所 - 心臓 - 交通と文化が交わる地域
志(こころざし)の集まる地域 能動的な営みと夢や願いを持った人が集まる地域

【5つの地域像】

地域像1 交流が広がる

「まちむら交流」で活力を育む地域

交流資源を全面に押し出し、その価値を高めることにより、都市・地域間の交流人口が拡大し、交流による元気づくりを進める。

地域像2 生活(くらし)の絆が深まる

家族・地域・生活(くらし)の絆を深めるとともに、絆の力で安全・安心を支える地域

「家族の絆」「地域の絆」「生活(くらし)の絆」をますます深め、より安全・安心に満ちた社会づくりに取り組む。

地域に潜在する専門知識・技術を有する人材のネットワーク化を図り、北播磨の未来を担う人づくりを推進する。

地域を挙げて一人暮らし高齢者や子どもへの声かけ、見守りを行う。

地域像3 文化が花開く

芸術・文化を暮らしに活かす地域

伝統文化や地域の歴史が子どもたちに継承され、郷土愛に満ちた地域で、音楽・芸術家と支援グループが活躍し、文化的で質の高い生活をめざす。

地域像4 恵み豊かな環境が持続する

北播磨が持つ豊かな自然・生態系の調和した暮らしが持続する地域

地域住民の環境意識をますます高め、自然環境の保全や森づくりへの取組を継続的に行い、豊かな自然・生態系の調和した暮らしを守る。

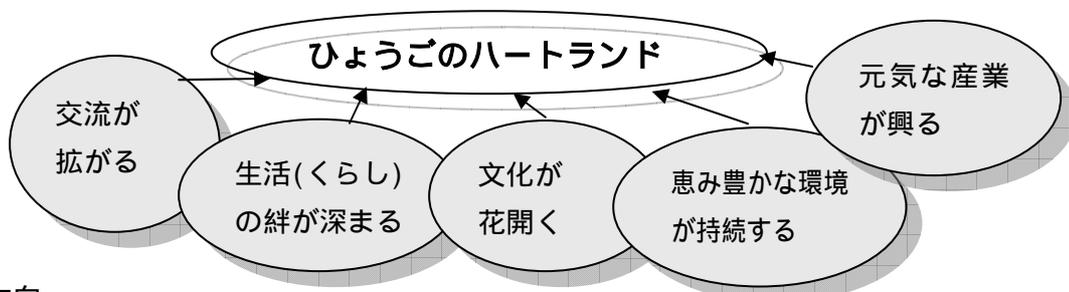
地域像5 元気な産業が興る

多様な産業が活性化し、だれもが生きがいを持って働ける地域

地場産業の元気を取り戻し、新産業を創造し、希望に満ちた若者の就労をめざす。

北播磨が食料供給基地としての機能を果たし、地域住民に地産地消が浸透し、元気な農家による食の企業化を推進する。

“ひょうごのハートランド”をめざして



3 取組方向

地域像	取組方向
交流が広がる	1 都市との交流の拡大
	2 公共交通の利用促進
生活(くらし)の絆が深まる	3 助け合い・支え合い地域システムの構築
	4 地域で高齢者見守り
	5 地域で子育て、未来を担う人づくり
	6 地域医療、防災、防犯の取組の強化
	7 命の教育、健康づくりの推進
文化が花開く	8 伝統文化の継承
	9 地域の音楽・芸術家と活動支援グループの活性化
	10 歴史の伝承
恵み豊かな環境が持続する	11 ため池、水田、森の生物が元気に暮らす環境づくり
	12 生き生きとした北播磨の森づくり
	13 環境に負荷をかけない新エネルギーの活用
	14 ゼロエミッションの推進
元気な産業が興る	15 地場産業の活性化、地場産品の高付加価値化
	16 新たな「しごと・働く場」づくり
	17 未来を拓く「農」づくり
	18 健康を育む「食」の普及

5 中播磨地域ビジョン

瀬戸内海臨海部から、自然豊かな中山部にまたがる、個性豊かな地域が南北に連なる中播磨地域。それぞれの個性豊かな地域が相互に連携しあいながら、さらに地域の魅力を高めていくため、中播磨の持つ「人の輪」と「地域の輪」をつなぐことにより、地域全体が元気になっていくことをめざします。

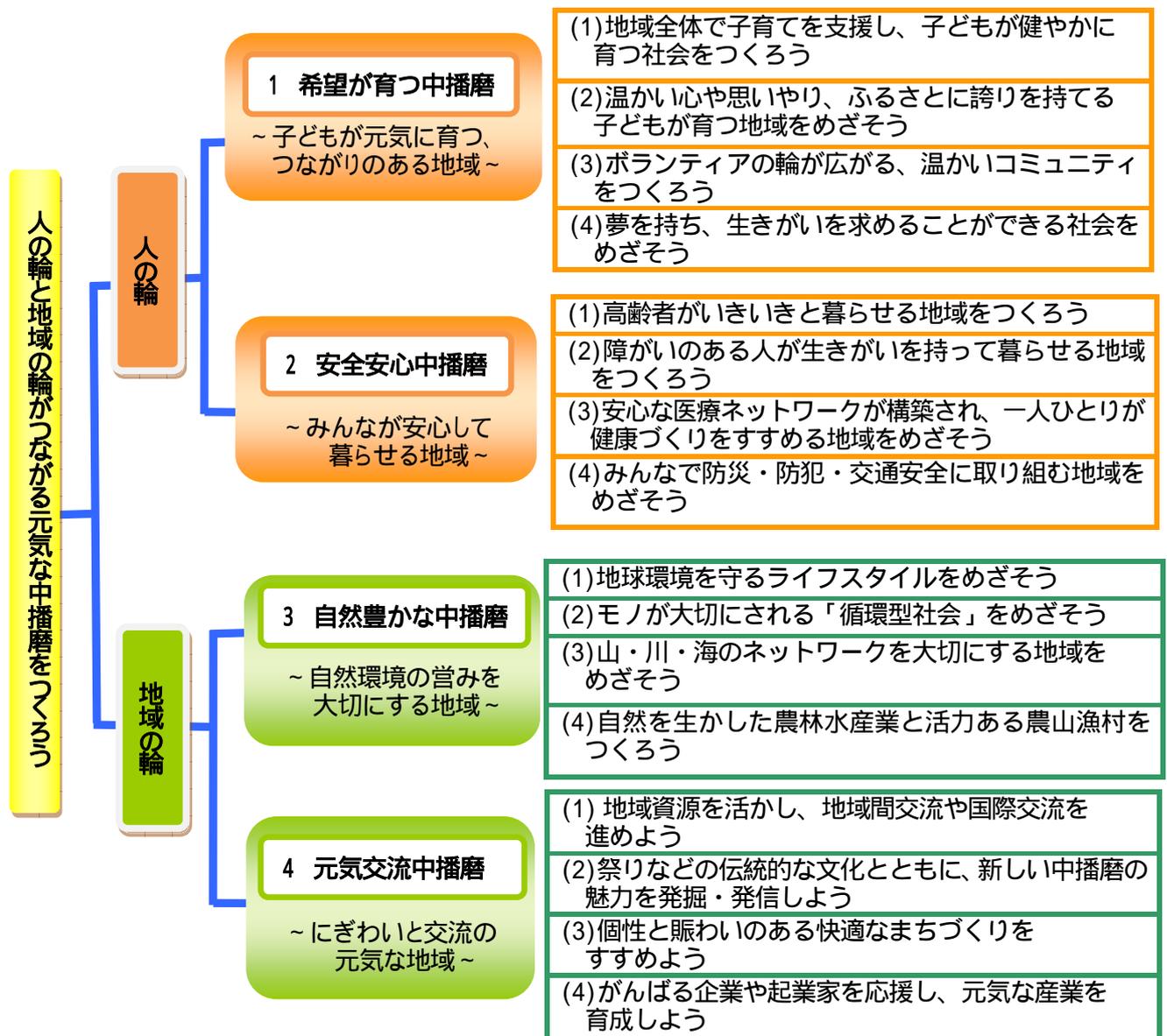
1 基本姿勢

中播磨地域の個性豊かな地域をつなぎ、さらに元気な地域を作っていくために、古来より中播磨地域の歴史と文化と自然を南北につなぐ象徴として用いられてきた「銀の馬車道」に焦点をあて、下記のとおりとしました。

人の輪と地域の輪がつながる元気な中播磨をつくろう
～つなぐ つながる 銀の馬車道～

2 地域の“夢”

地域のすべての人々にとって分かりやすく、取り組みやすい中播磨地域づくりの指針となるよう、下記のとおり「4つの夢と16の目標像」を描きました。



3 地域の“夢”の実現に向けて

～ビジョンの実現に向けた取組や戦略～

地域住民が行う自律的な実践活動の取組や連携方法を示す「県民行動プログラム」、中播磨地域における県行政の重点的な取組を定める「地域経営プログラム」に基づき、ビジョンが描いた地域の夢の実現に向けて取組を進めるとともに、これらの進捗状況を図るモノサシとして、「地域力指標」を活用していくこととしています。

(1) 県民行動プログラム

地域住民が自律的な実践活動やアクションを起こすとともに、互いに連携しながらビジョンの実現に向けて取組をすすめていくにあたり、4つの“夢”ごとに、県民が主体となって取組を進めていくアクションのアイデア群

1 希望が育つ中播磨

- ・あいさつを通じて、地域みんなで顔の見える関係を築く
- ・姫路城などの文化遺産や地域の歴史を伝える活動を展開する
- ・地域住民みんなが交流できる場をつくる
- ・誰もがいつでも学ぶことができる環境をつくる

2 安全安心中播磨

- ・人材バンクをつくり、世代を越えたつながりをつくる
- ・地域マップやネットワークをつくり、安全情報を共有する
- ・みんなの健康と安全を守る
- ・互いに助け合う地域づくりを促進する

3 自然豊かな中播磨

- ・山川海などの地域の自然を守る活動の促進
- ・地域の環境ネットワークを構築する
- ・眠っている自然や遺産を発掘・リニューアルする
- ・食による地域自然の有効活用

4 元気交流中播磨

- ・個人、家族、地域単位でのつながりを深める
- ・あらたな地域資源の発信!
- ・誘客プロジェクトの展開
- ・銀の馬車道事業を盛り上げ、観光客を増やす

(2) 地域経営プログラム

“地域の夢”を実現に向け、地域住民の参画と協働のもとで地域政策の総合的な展開を図っていくために毎年度策定する施策群

<参考：平成23年度地域経営プログラム>

“地域の力がつむぐ元気な中播磨づくり”に向けた4つの施策の柱

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 活気とにぎわいのある播磨の顔づくりの推進 | ともに支え合う安全・安心の地域づくりの推進 |
| 人と自然が共生する暮らしづくりの推進 | 地域の魅力を活かしたツリズムの振興と交流の推進 |

(3) 地域力指標

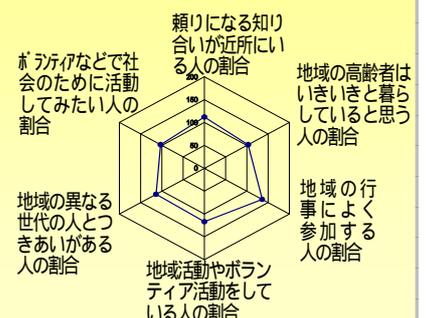
多角的にビジョンの実現を図る目安にするとともに、地域の強み、豊かさを評価し、効果的な地域づくり活動の展開を促進するツール

統合的指標

：目的・関心に応じた既存の統計データを組み合わせ、地域の強み・弱みを多角的に把握する。

手作り地域力指標

：地域資源の掘り起こしを行い、数え上げ、記録化することにより、地域の魅力を再発見し、新たな地域づくり活動につなげる。



6 西播磨地域ビジョン ～光と水と緑でつなぐ - 元気・西播磨～

1 西播磨地域ビジョン策定(平成13年2月)以後の地域の変化、地域の特徴的な動き

(1) 西播磨地域の変化

市町合併の促進 人口減少 進む少子高齢化

(2) 西播磨地域の特徴的な動き

地域住民の参画と協働の取り組みが進展 地域の交通基盤の整備
播磨科学公園都市のまちづくり 度重なる自然災害

(3) 2040年の展望

更に進む人口減少 更に進む少子高齢化と生産年齢人口の減少
小規模集落の増加 地域活性化に向けたまちづくりの進展

2 地域の夢(4つの夢と目標像)

ふれあいを大切に、豊かな人間関係をつくろう

人の輪社会

子育てを地域全体で支援し、子どもが健やかに育つ社会をつくろう
女性が働きながら生き生きと暮らせる社会をめざそう
高齢者が経験や能力を活かして、元気に地域で活躍できる社会をめざそう
ボランティアの輪が広がる、暮らしやすいコミュニティをつくろう
ふるさとに誇りを持ち、自立した地域をめざそう
生きがいをもって働ける社会をめざそう
情報通信技術(ICT)を活かした地域づくりをめざそう



住みなれた地域で支え合ってともに生きよう

安全安心社会

高齢者が安心して暮らせる地域をつくろう
障がいのある人が安心して、生きがいを持って暮らせる地域をつくろう
誰もが暮らしやすい「ユニバーサル社会」をめざそう
医療等や食の安全が確保された安心な地域をめざそう
いつまでも健やかで心豊かに生活できる社会をめざそう
災害に強いまちづくりをめざそう
安全で安心して暮らせる地域をめざそう



人と自然が共生する美しい西播磨をめざそう

環境王国

ものが大切にされる「循環型社会」をめざそう
低炭素社会をめざし、地球環境を守るライフスタイルをめざそう
美しい揖保川、千種川、西播磨のなごさをつくろう
多様で健全な森づくりを進めよう
環境に配慮した農林水産業と活力ある農山漁村をつくろう



にぎわいと交流の元気な地域をつくろう

きらきら西播磨

にぎわいと交流の地域をつくろう
地域資源を活かした交流を進めよう
伝統の祭り新しいイベントを展開し、西播磨文化を発信しよう
県際交流、国際交流を盛んにし、多文化共生の地域づくりを進めよう
播磨科学公園都市を中心に産業基盤の整備を進めよう
企業の創造的活動や社会貢献を応援しよう



3 新たな地域の夢を実現するための重点プログラム

改訂版「西播磨地域ビジョン」の実現のため、地域住民主体の協働プロジェクトなど、西播磨地域での取組の指針となる具体的項目をまとめた。

(1)西播磨重点アクション項目

- 第1の夢 人の輪社会
 - アクション1：子育て支援情報の収集と発信
 - アクション2：青少年の健全育成活動
 - アクション3：インターネット（地域SNS）の活用による交流の推進
- 第2の夢 安全安心社会
 - アクション4：福祉（安心安全）マップなどの作成
 - アクション5：医療機関の適切な利用の呼びかけ
 - アクション6：自主防災組織の活性化と住民の防災・減災意識の啓発
 - アクション7：防犯・交通安全の意識啓発
- 第3の夢 環境王国
 - アクション8：環境学習の推進
 - アクション9：森・川・海の活動の連携と意識啓発
 - アクション10：マイバッグ運動やゴミゼロ運動など生活環境問題
 - アクション11：地産地消、地元産品のブランド化などの取組
- 第4の夢 きらきら西播磨
 - アクション12：県際交流の推進
 - アクション13：地域資源を活かした交流の推進
 - アクション14：地域のにぎわいづくり
 - アクション15：鉄道やバスなどの公共交通機関の利用促進

(2)シンボルプロジェクト

つながるひろがる「出る杭」西播磨元気プロジェクト

交流と魅力発信で元気な西播磨をつくる -

シンボルプロジェクトの趣旨

西播磨地域は、夢をもって新しい分野に挑戦し西播磨を元気にしようと取り組んでいる団体や個人を「出る杭」として育成し、地域を活性化していく「出る杭プロジェクト」を推進してきた。

今後も頑張る組織や人を応援し、それぞれをつなぐ交流を進めるとともに、西播磨の誇るべき歴史・文化・伝統、産業、自然環境などに目を向けその魅力を地域内外に発信し、元気な西播磨づくりをめざす。

実践活動例

- ・地域間の交流と西播磨の魅力発信
- ・西播磨の歴史・文化・伝統の再発見
- ・「出る杭大会」の充実・発展



出る杭プロジェクト「第10回出る杭大会」

4 西播磨地域ビジョンの実現に向けて

(1)西播磨地域ビジョンの推進

地域住民・団体と行政の参画と協働のもと、西播磨地域ビジョン委員会が中心となって、NPOや自治会等地域の様々な地域活動団体との連携を図るとともに、ビジョン委員OBや学識経験者、他地域のビジョン委員会とも交流・連携を図りながら取り組んでいく。

(2)西播磨地域ビジョンのフォローアップ

- ・地域ビジョン情報誌「きらきら通信」の発行
- ・西播磨県民局ホームページでの情報発信
- ・西播磨地域夢会議の開催
- ・地域力指標の作成による新たなフォローアップの仕組みづくり

7 但馬地域ビジョン（バージョン2）

～確かな未来『あしたのふるさと但馬』への道しるべ～

但馬地域ビジョン（バージョン2）策定に際して

但馬地域では、ビジョン策定から10年が経過した現在、人口減少の加速化と少子高齢化の進展、地域経済の収縮と閉塞感の増大、住民意識・価値観の多様化・変化による但馬らしさ・誇りの希薄化、という大きな3つの課題に直面しています。

しかし、一方で、コウノトリの野生復帰への取組や山陰海岸ジオパーク活動など今後の可能性を示す明るい兆しも芽生えていることから、あらためてそれらを踏まえながら、以下の視点で但馬の将来像を描くこととしました。

【フォローアップの視点】

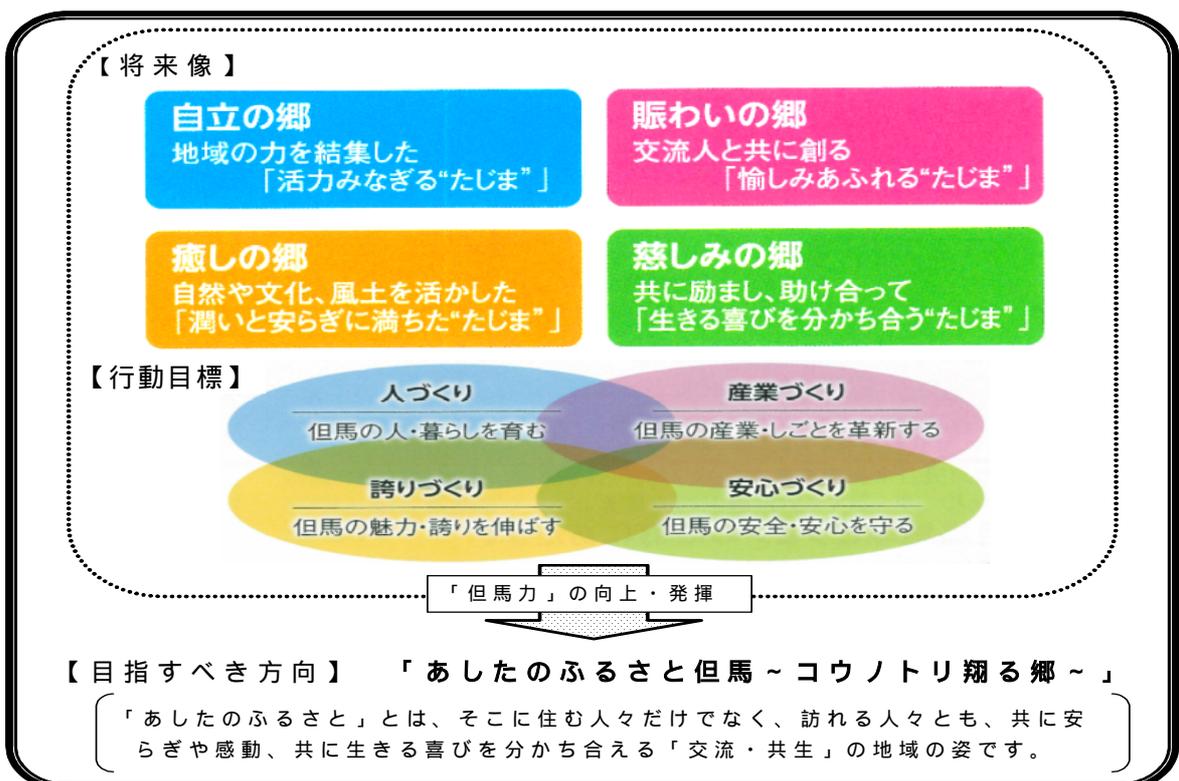
- 但馬づくりの原点である「あしたのふるさと但馬」の理念（平成6年に実施した但馬理想の都の祭典で掲げた理念）の再確認・再評価
- 実感できる但馬の現在（現状・課題の明確化）と将来像（ビジョン）の見える化
- 地域再生に向け、公民オール但馬で取り組む挑戦のシナリオづくり
- ビジョン具現化に向けた取組提案

将来像・行動目標と目指すべき方向

今回、あらためて描く但馬の将来像は、但馬理想の都の祭典における但馬づくりの基本理念を再認識し、現行ビジョンの4つの将来像（自立、賑わい、癒し、慈しみの4つの郷）、目指すべき方向（～活力・交流・循環・協働～コウノトリ翔る郷）を継承しています。

その上で、4つの将来像を実現するための行動目標を示すとともに、目指すべき方向の理念をより明確化しています。

【将来像・行動目標と目指すべき方向】



将来展望へのシナリオ

今回のビジョンでは、行動目標をより具体的な形で将来に向けて展望するため、包括的なシナリオを描いています。

【包括的シナリオ】(抜粋・要約)

但馬の「人づくり」(但馬の人・暮らしを育む)

- ・ 人口は減少するものの、都市部住民の身近な「ふるさと」として交流人口を確保
- ・ 豊かな自然環境の中での子育てや生活を求めた移住者が増加
- ・ 地域再生に向けた但馬の様々な取組を応援する機会を通じ、大学や企業、都市部団体等の中からより深く但馬に関わる「但馬サポーター」が誕生
- ・ 祭典20周年記念事業などでの地域づくり活動の経験から、自ら地域づくりをプロデュースできる人材が成長

但馬の「産業づくり」(但馬の産業・しごとを革新する)

- ・ 「人と自然の共生」の地域づくりが環境と経済の両立を目指した世界的にも先進的な取組として高い評価を受け、「但馬」の地域ブランドが定着
- ・ 空き施設、空き店舗、耕作放棄地などの空き空間を新たな産業空間として再生活用することで、初期投資を抑えた起業チャレンジの機会が創出
- ・ 農「観」商工連携や6次産業化など、都市部とは違う地方ならではの働き方の創出により第一次産業の基盤が強化
- ・ 山陰海岸ジオパークが既存観光や鉱石の道等と複合化し但馬観光の魅力がさらに拡大

但馬の「誇りづくり」(但馬の魅力・誇りを伸ばす)

- ・ 「但馬」ブランドが但馬の風土・風習・伝統など地域固有の魅力を発信する総合的な地域ブランドとして発展し、地域住民の郷土愛と誇りが高揚
- ・ 進学等で但馬を離れた若い世代がコミュニティビジネスなどで但馬に自分の役割や居場所を見出し、ふるさと但馬に帰帰
- ・ ふるさと但馬への帰帰の流れが但馬外からの新たな人の流れを創出
- ・ 但馬で生産される農水産物が地域の誇る安全安心な食材として但馬内外で高く評価

但馬の「安心づくり」(但馬の安全・安心を守る)

- ・ 自分の居場所や役割をもった高齢者が悠々と暮らせる「終の棲家」を支える仕組みの整備が進展
- ・ 安全安心な食をベースとしたスローライフスタイルが予防医療とあいまって但馬の健康寿命を延ばし「高齢地域」が「長寿地域」に転換
- ・ 地域ぐるみで子育てや高齢者を見守る地域スタイルとしてご近所づきあいの復活による安全安心な地域づくりが進展
- ・ だれもが身近なところで安心して医療が受けられるなど、地域の医療体制が充実

シンボルプロジェクト

今回のビジョンでは、ビジョンが描く将来像の実現に向けて地域住民と行政が参画と協働のもとで一体となって取り組むシンボルプロジェクトを提案しています。

但馬・理想の都の祭典20周年(2014年)事業

ビジョンが目指す「あしたのふるさと但馬」づくりを体現・体感し、確かな未来を創造していくための取組の展開

但馬力強化大作戦

地域資源・誇り・強み等の掘り起こしによる但馬の地域力指標づくりとその指標を向上する取組の展開によるビジョン実現度合いの「見える化」

但馬夢シナリオプロジェクト

但馬に住む・関わる様々な方の小さくてもより具体的な夢とその実現に向けた道筋(但馬夢シナリオ)の共有・具体化による、将来展望への包括的シナリオの実現

8 成長しつづける丹波の夢ビジョン 改訂版 みんなで丹波の森

1 丹波地域ビジョンの改訂について

時代潮流の変化を踏まえながら、地域住民・関係団体から寄せられた意見等をもとに、現行丹波地域ビジョン「みんなで丹波の森」を点検・評価し、丹波地域ビジョン改訂版を策定しました。

2 ビジョン策定（平成13年2月）以降の地域をとりまく変化

現行丹波地域ビジョンの策定以降、人口減少社会の到来、地域産業の低迷、住民による地域づくり活動の活発化、交流活動の多様化、環境意識の高まり、地域コミュニティの機能の低下、農林業の重要性の再認識の動きと野生動物等による被害、情報化の進展、安全・安心意識の高まり、ユニバーサル社会への社会的要請の高まり、という地域をとりまく変化が生じています。

3 これまでの地域での取組内容・活動成果

(1) 丹波地域ビジョン委員会の取組内容

第1期～第4期丹波地域ビジョン委員会では、平成13年から平成20年までの8年間に延べ466名のビジョン委員が、様々な活動を展開しました。現在は、第5期ビジョン委員101名が、10の実践活動グループにおいて具体的な取組を実施しています。

(2) 将来像の実現状況

将来像の実現状況について、丹波地域ビジョン委員等を対象としたアンケート調査を実施したところ、将来像1～3はかなり達成しているものの、将来像4と将来像5の進捗は相対的に低くなっています。

(3) 地域ビジョンの実現に向けた取組の成果

400名以上のビジョン委員が「森の市民」（地域内外を問わず、丹波地域に誇りと愛着を持ち、丹波の地域づくりに責任を持って行動する自立した人々等）として、地域内外の人々や団体と連携しながら、丹波地域の魅力づくりに取り組んできました。

このようなビジョン委員の取組を通じて、丹波地域の住民にも、自分たちの地域のことは自分たちが考えるという住民参画の意識が高まり、幅広い分野にわたって主体的・自立的な取組が展開されるようになりました。

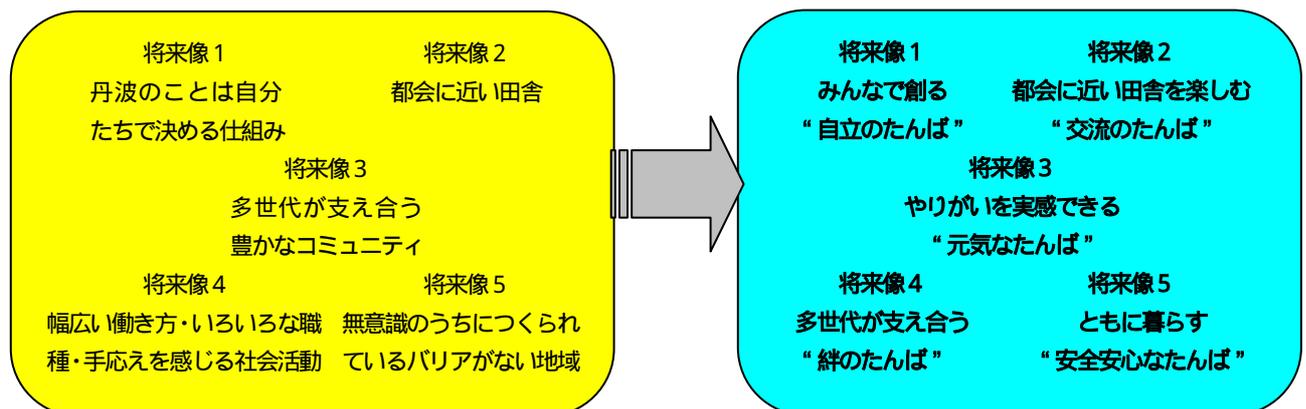
地域ビジョンの実現に向けた取組の成果としては、地域を担う多様な人材の育成の進展、モデルとなる地域づくり活動の展開、団体間の協働による取組の拡大、住民提案型の地域づくりの普及、があげられます。

4 丹波地域の新たな課題について

丹波の森夢会議や地域ビジョン検討委員会、たんば夢フォーラム、各種団体等へのアンケート調査の結果等から、住民の地域づくりへの参加、豊かな自然と景観の保全、都市部や京都丹波等との交流・連携、子育て環境づくり、高齢者の社会参加、農林業・地域産業の振興、多様な働き方等の促進、ICTの活用、若者の定着、安全安心な社会づくり、という課題が明らかとなっています。

5 丹波地域の将来像について

現行ビジョンに係る5つの将来像の基本的な方向は変えませんが、だれもがわかりやすい方向を明確にし、ビジョンの実現に向けた課題認識を共有し、解決に協働して取り組みます。



6 新たな将来像を実現するための取組の方向

丹波地域が持つ資源を最大限活用し、丹波地域の魅力を創造するための取組の方向は次のとおりです。

将来像1：みんなで創る“自立のたんば”

地域の魅力発掘と情報発信、地域を担う人材の育成、地域づくりへの住民参加の推進、地域で活動する団体の連携推進

将来像2：都会に近い田舎を楽しむ“交流のたんば”

森・川・里の豊かな自然の保全と活用、環境に優しい地域づくりの推進、環境学習フィールドづくり、美しい景観づくりの推進、都市との多彩な交流の推進、丹波の田舎暮らし情報の発信

将来像3：やりがいを実感できる“元気なたんば”

地域の産業をリードする農林業の振興、商店街の活性化・ものづくり産業の振興、丹波の魅力を活かしたツーリズムの推進、地域の資源を活かした「しごと」の創出、地域づくり活動・文化活動の推進、若者の就労促進

将来像4：多世代が支え合う“絆のたんば”

地域コミュニティの再生、地域ぐるみでの子育て推進、高齢者が安心して暮らせる地域づくり、高齢者が活躍できる地域づくり

将来像5：ともに暮らす“安全安心なたんば”

誰もが暮らしやすいユニバーサル社会の実現、障害のある人も外国人も共に暮らす地域社会の実現、医療や健康、食の安全が確保された安心な地域の実現、災害に強く、犯罪のない地域づくりの推進

7 新たな将来像の実現に向けて

(1) 取組姿勢

現行丹波地域ビジョンの「いのちをはぐくむ・自然の環」「ひとをはぐくむ・人間の環」「なりわいをはぐくむ・産業の環」の3つの環の考え方を基本としながら、住民、団体、企業、行政等が連携し、主体的な取組を進めます。

(2) シンボルプロジェクトの展開

平成18年度に設定したシンボルプロジェクト『たんば田舎暮らし支援プロジェクト』を発展させ、『[たんばを楽しむ連携・交流プロジェクト](#)』として設定し、住民と行政が協力して取組を実施します。

【取組例】

- ・丹波地域に人を呼び込むため、魅力あふれる田舎暮らしを積極的に情報発信する
- ・空き家を活用した体験・交流施設をつくり、週末等の短期滞在、さらに定住化につなげていく
- ・田舎暮らし支援を行うとともに、都市からの移住者のネットワークづくりを進める
- ・京都丹波との連携により、「大丹波」の魅力をアピールしていく
- ・企業や大学と連携した森・里づくりや地域づくりを推進する
- ・食と農、文化、恐竜化石など多様な地域資源を活用した都市との交流を進め、丹波地域の魅力を高めることにより、地域内外で「丹波ファン」を増やす

(3) 取組体制

地域内外の様々な主体が参画と協働の理念のもと、適切な役割分担を行い、多重的なネットワークを形成して、連携と協力を図ることができるよう、丹波地域ビジョン委員会は、企業、NPO、自治会、まちづくり協議会等との連携を進め、地域のコーディネーター役として、ビジョン実現の具体化に向けた取組を実施します。

9 淡路地域ビジョン 改訂版

1 淡路島を取り巻く環境の変化

地球規模で環境、経済、社会の破綻が危惧される中、地方においては、経済が衰退し、コミュニティが崩壊しつつある。日常生活では、低炭素化、生物多様性の保全、自然災害への備えなど自然との関わり方があらためて問われている。

2 淡路島の直面する課題

第1次産業や地場産業の生産額が減少し、若者の流出が加速する一方で、後継者不足が深刻化している。人口の減少や少子高齢化に伴い、都市機能、空間管理、コミュニティの維持等に困難が生じ、交通網の縮小や学校の小規模化が進行している。割高な高速道路料金をはじめ、島外との交通の問題も大きな課題である。地球温暖化、生態系の変化、資源の枯渇、淡路らしい景観の喪失、自然災害への備えなど自然との新たな関係も大きな課題となっている。

3 淡路島が持つ可能性

淡路島は、「国生みの島」として他の地域にはない歴史を持っている。日本の未来を考えるヒントは、この島の歴史と文化の中にある。化石燃料をエネルギーとする大量生産社会が行き詰まりを見せる中で、海上運送、第一次産業、バイオマス、水の管理、山の管理、コミュニティの形成など、自然の恵みを引き出そうとしてきた淡路島の風土と文化があらためて脚光を浴びる可能性が出てきている。

4 淡路地域ビジョンの理念

理念1 **命をつなぐ“持続可能な島”**

命には、時代を超え、世代を超える“縦のつながり”と、あらゆる生き物との“横のつながり”の2つがあり、こうしたつながりを大切にする持続可能な社会を実現する。

理念2 **「経済」「社会」「環境」の調和がとれた新たな“幸せ社会”**

経済、社会、環境の調和を大切にする価値観を共有し、子どもたちがやりがいのある仕事に希望を見出し、幸せを実感できる社会を実現する。

理念3 **環境立島“公園島淡路”の理念の継承と発展**

人と自然が協働することで新たな人と自然の関係をきずく「環境立島“公園島淡路”」の理念の継承と発展をめざす。

5 淡路地域ビジョンの目標と実践目標

目 標

環境立島あわじ ～人と自然の豊かな関係をきずく“公園島”へ～

実践目標 ～あわじ環境未来島構想を推進～

実践目標1 **誰もが役割を持ち、地域の宝が生きる島づくり**

地域における「参画と協働」を進め、淡路島の未来を託せる人材を育てる。

それぞれの人々が持つ知恵や技術を活かし、すべての人々に役割や居場所がある生涯現役で暮らせる島を目指す。

一人ひとりが大切にされ、お互いに助け合い、支えあって生きていることが実感でき、自助、共助、公助のバランスがとれた島を目指す。

伝統的な文化を継承するとともに、命のつながりを大切にする子どもたちを育てる。

一人暮らしの高齢者や過疎地域でも安心して暮らせる健康・医療・福祉の充実を図る。

淡路らしい景観やアメニティ豊かな地域空間を創造する。

交通弱者に優しく、環境負荷の少ない地域交通をつくる。

実践目標2 個性と活力にあふれ、新たな価値を生み出す島づくり

地域資源を生かし、地域内外との連携をとりながら、付加価値の高い産業を生み出す。
若者が就労できる機会を増やすことと、適正規模で一人ひとりが生きていける小さな生業を興こす主体的な行動を支援する。
地産地消など富を内部に循環する仕組みづくりを進め、地域経済の自立を目指す。

物品やサービスの地産地消の取組を進め、地域経済の循環と産業の競争力向上を図る。
農林水産業の6次産業化を進め、新しい農と食の展開に向けた人材育成に取り組む。
食のブランド化を推進し、地域の食材と文化を生かした「食の文化」を創造し、発信する。
環境配慮型企业や農業関連企業を積極的に育成、誘致する。
自然と共生する暮らしやツーリズムを提案し、定住・交流人口の増加をめざす。

実践目標3 自然とのつき合い方を再考し、その恵みに支えられた島づくり

自然への畏敬の念や命のつながりを自覚するとともに、災害の教訓を深く記憶にとどめ、これからの生き方、暮らし方に生かしていく。
自然に恵まれた淡路島の価値を生かした地域づくりを進め、グリーン経済を振興し、グリーンカラーと呼ばれる人材を育てる。
多様な生態系を評価し、地域適正技術を活用して人と自然が協働（コラボレーション）することで、新たな共生空間の形成をめざす。

ハードとソフトが一体となった防災・減災の地域づくりを促進する。
放置竹林をはじめ里山・里海の整備を進め、豊かな環境と生態系の多様性を保全する。
エネルギー自給と自治を目指して地域内生産を促進する。
地域適正技術を研究し、淡路島の自然素材や伝統技術を元に生業（なりわい）を生み出す。

実践目標4 経済、社会、環境が調和し、命をつなぐ島づくり

経済、社会、環境の調和について関心を持ち、真の幸せ（豊かさ）が実感できる、淡路らしい暮らしを実現するための「仕組み」をつくる。
ビジョンの実践過程とその成果を世界に広く発信し、外部からの意見などを取り入れ、次のステップに生かす。

経済、社会、環境の調和について、暮らしの中で意識し、学び、考える機会を増やす。
地域の自然や文化に適合し、環境に優しく、淡路らしい暮らしを実現するための制度や仕組みを生み出す。
ビジョンの取組をフォローアップし、実践過程や成果を国内外に発信する。

6 ビジョン実現のためのポイント

- (1) ビジョンの普及と共感
- (2) あらゆる主体の参画
- (3) 行動や事業に応じた適切な協働と役割分担
- (4) 実現を支援する「仕組み」の構築
- (5) 的確なフォローアップ（評価、見直し等）

7 目標の指標化による検証（「幸せ指標」の設定と活用）

- (1) 「経済」、「社会」、「環境」のそれぞれの豊かさを総合したものを「幸せ」と定義
- (2) 「地球資源と環境容量」を制約として捉えた中で「新たな幸せ社会」のビジョンを作ることが求められている。
- (3) 「経済」、「社会」、「環境」3つの側面を総合化した指標として「幸せ指標」の設定をめざす。
- (4) 当面は、3つの側面ごとに経年的変化を観察し、地域社会の状況を把握し、ビジョンをフォローアップする。

(参考資料3) 21世紀兵庫長期ビジョン点検・見直しの経緯



参考資料3 - 1

21世紀兵庫長期ビジョン見直しの経過 …… 参-36

参考資料3 - 2

長期ビジョン審議会委員（名簿） …… 参-38

参考資料3 - 3

地域づくりに関わる三百人ヒアリング
に協力いただいた方々 …… 参-41

参考資料3 - 1

2 1世紀兵庫長期ビジョン見直しの経過

全県ビジョン

全県ビジョンの見直しにあたっては、平成19年度から、委員会や研究会などにおいて専門的な観点からの意見交換を重ねるとともに、さまざまな活動団体などの活動の場を訪問し、ヒアリングを重ね、時代潮流の変化や地域の課題群の掘り起こしを丹念に行った。

さらに、平成21年度から、本格的な見直しに着手し、兵庫みらいフォーラムの開催などを通じて幅広い県民意見の集約を行うとともに、長期ビジョン審議会での審議により、全県ビジョン改訂案の策定を進めた。こうした取組を経て、平成23年10月の長期ビジョン審議会において、パブリックコメントによる県民意見を盛り込んだ全県ビジョン改訂案をとりまとめた。

【時代潮流を考える調査研究】

長期ビジョン推進委員会の開催（平成19年4月～平成22年3月）

- ・21世紀兵庫長期ビジョンの推進とフォローアップ、ビジョンに係る調査研究等について幅広く意見交換（5回開催）
- ・同推進委員会において、全県ビジョン改訂に係る中間報告をとりまとめ（22年3月）

学識者による時代潮流研究会の開催（平成19年4月～）

- ・全県ビジョンの点検・見直しに向けて、学識者などで構成し、「豊かな暮らし」「世界化」「地域構造」の3テーマによる研究を実施

【地域の課題群に関するヒアリング調査】

地域づくりに関わる三百人ヒアリングの実施（平成19年度～平成22年度）

- ・「豊かな暮らし」「世界化」「地域構造」の3テーマで、NPO団体や地域団体、企業などの活動の現場を訪問し、兵庫の未来を先取りする動きをつかむとともに地域が直面する課題群を掘り起こすヒアリングを実施（ヒアリング先の団体等の一覧は参考資料3 - 3）

【フォーラム等の開催による幅広い県民意見の集約】

「兵庫みらいフォーラム」の開催（平成21年度～平成23年度）

- ・多様な世代の参加のもと、各地域が抱える課題を共有し、全県ビジョンの将来像と実現のための取組の方向を議論する場として開催
（開催実績）

（21年度）H21.10 『2040年地域の未来 兵庫の未来』（神戸・姫路・豊岡同時開催）180人参加

H22.2 『兵庫2040 私たちの未来を考える』（播磨町）200人参加

（22年度）H22.9 『夢交わる つながり・デザイン』（大学生による夢提案）（加東市）200人参加

H23.2 『兵庫を元気にする「つながり・デザイン」』（高校生による夢提案）（神戸）120人参加

（23年度）H23.7 『「つながり」で描く地域の未来』（神戸）150人参加

地域での出前ミニフォーラムの開催（平成22年度）

- ・県民局圏域の地域団体、実践活動家、NPO、市町などの参加を得て開催（5回、146人参加）

【さまざまな機会を通じた若い世代からの未来の兵庫や地域に関する夢提案募集】

- ・ 青年会議所（JC）と連携した子ども県議会参加中学生へのアンケート(22年7月)
- ・ 青年会議所会員への兵庫の将来像についてのアンケート(22年9月)
- ・ 「大学コンソーシアムひょうご神戸」と連携した大学生からの提案募集(22年10月)
- ・ 県内高校生(約1千人)からの提案募集(22年11～12月)

【長期ビジョン審議会におけるビジョン改訂案の審議】

- ・ 全県ビジョンの点検・見直しとして、今後の将来像、実現に向けた課題と重点方策を審議するため、長期ビジョン推進委員会を発展させる形で平成22年度に設置
(審議経過)
 - (22年度) 第1回総会(H22.7.1) 諮問
 - テーマ別会議(H22.12.1) 「持続する地域構造」に係る課題と重点方策
 - テーマ別会議(H23.3.8) 「豊かな生活」「世界の中の兵庫」に係る課題と重点方策
 - (23年度) 第2回総会(H23.5.26) 全県ビジョン改訂版原案の協議
 - 第3回総会(H23.8.17) 全県ビジョン改訂案の協議
 - 第4回総会(H23.10.25) 全県ビジョン改訂答申案の協議
 - 答申(全県ビジョン改訂案)を知事に提出(H23.11.14)

【パブリックコメントの実施】

全県ビジョン改訂案に対するパブリックコメントの実施

- ・ 意見募集期間：平成23年7月22日～平成23年8月11日
- ・ 意見等の提出件数：81件(50人)

【県議会での審議・議決(平成23年第311回定例会)】

- ・ 「21世紀兵庫長期ビジョン・全県ビジョンの見直し」議案提案(H23.12.2)
- ・ 原案可決(H23.12.14)

地域ビジョン

地域ビジョン委員会での検討

- ・ 第5期地域ビジョン委員を中心に、ビジョンの見直しについて、地域ビジョン委員会や同部会で幅広く意見交換を実施

地域ビジョンの点検・見直しに向けた「地域夢会議」の開催

- ・ 地域ビジョン委員、同委員OB、地域の活動団体等を巻き込んだ幅広い主体の参画により、地域像や取組方向の議論を深め、地域ビジョンの見直しに反映するため、「地域夢会議」を開催
 - (21年度) 各地域1回開催 延べ1,571人参加
 - (22年度) 各地域2回開催 延べ2,056人参加
 - (23年度) 各地域1回開催 延べ880人参加

参考資料3 - 2

長期ビジョン審議会委員（名簿）

（五十音順、敬称略）

氏名	職名等	就任期間
青木 芳信	丹波地域ビジョン委員会委員長	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
赤鹿 保生	中播磨地域ビジョン委員会委員長	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
井上 あい子	公募委員	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
井野瀬 久美恵	甲南大学文学部教授	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
岩成 孝	兵庫県連合自治会会長	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
上原 利信	兵庫県森林組合連合会専務理事	平成23年5月17日～ 平成24年3月31日
内田 勝雄	阪神北地域ビジョン委員会委員長	平成22年7月1日～ 平成23年5月16日
内堀 克子	阪神北地域ビジョン委員会委員長	平成23年5月17日～ 平成24年3月31日
大谷 敦子	生活協同組合コープこうべ理事	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
岡田 和隆	兵庫県身体障害者福祉協会理事長	平成23年8月1日～ 平成24年3月31日
岡田 眞美子	兵庫県立大学環境人間学部教授	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
小川 英一	兵庫県身体障害者福祉協会理事長	平成22年7月1日～ 平成23年7月31日
奥田 眞	ひょうごツーリズム協会理事長	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
尾崎 光雄	兵庫県町村会会長(市川町長)	平成22年7月1日～ 平成23年7月31日
梶山 卓司	神戸新聞論説委員長	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
加藤 恵正 (会長)	兵庫県立大学政策科学研究所長	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
角野 幸博	関西学院大学総合政策学部教授	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
川中 大輔	公募委員	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
神崎 壽福	北播磨地域ビジョン委員会委員長	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
木田 薫	淡路地域ビジョン委員会委員長	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
木田 聖子	公募委員	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
北野 美智子	兵庫県連合婦人会会長	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
木村 和子	阪神南地域ビジョン委員会委員長	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日

清川 とし子	兵庫県生活研究グループ連絡協議会理事	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
国枝 哲男	公募委員	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
小崎 恭弘	神戸常磐大学短期大学部准教授、ひょうごおやじネットワーク世話人	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
志智 宣夫	兵庫県商工会連合会副会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
清水 勲夫	兵庫県青少年団体連絡協議会副会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 23 年 1 月 31 日
杉原 左右一	大学コンソーシアムひょうご神戸理事長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 23 年 5 月 16 日
妹尾 美智子	神戸市婦人団体協議会専務理事	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
高木 利浩	兵庫県 PTA 協議会副会長	平成 23 年 8 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
武田 政義	兵庫県社会福祉協議会会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
谷 亨二	兵庫県老人福祉事業協会副会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
谷水 ゆかり	兵庫県 PTA 協議会副会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 23 年 7 月 31 日
戸田 善規	兵庫県町村会会長(多可町長)	平成 23 年 8 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
富木 攻	東播磨地域ビジョン委員会委員長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
中川 孝之	兵庫県森林組合連合会理事	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 23 年 5 月 16 日
中島 克元	神戸まちづくり協議会連絡会事務局長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
中瀬 勲 (会長代理)	兵庫県立人と自然の博物館副館長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
中西 均	兵庫県商工会議所連合会専務理事	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 22 年 11 月 30 日
西垣 義嗣	公募委員	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
西門 義博	兵庫県私学総連合会会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
西田 正則	兵庫県市長会会長(たつの市長)	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
西田 芳矢	兵庫県医師会副会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
西村 文博	日本青年会議所近畿地区兵庫ブロック協議会副会長	平成 23 年 3 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
西山 安子	兵庫県子ども会連合会事務局次長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
能口 秀一	公募委員	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
野々山 久也	甲南大学名誉教授、ひょうご震災記念 21 世紀研究機構研究統括	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
登里 倭江	兵庫県いずみ会会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日

服部 良子	大阪市立大学大学院生活科学研究科准教授	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
浜田 充	兵庫県農業協同組合中央会専務理事	平成 23 年 8 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
濱名 篤	大学コンソーシアムひょうご神戸理事長	平成 23 年 5 月 17 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
林 敏彦	同志社大学大学院総合政策科学研究科教授、ひょうご震災記念 21 世紀研究機構研究統括	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
福岡 誠行	兵庫県自然保護協会理事長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
藤原 進之助	但馬地域ビジョン委員会委員長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
フリッツ・レオンハート	神戸外国倶楽部元会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
鮑 悦初	神戸華僑総会会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
増田 大成	ひょうご農業クラブ理事長	平成 23 年 2 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
松本 恵一	日本青年会議所近畿地区兵庫ブロック協議会副会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 23 年 2 月 28 日
三木 久和	兵庫県農業協同組合中央会専務理事	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 23 年 7 月 31 日
三澤 泰士	兵庫県老人クラブ連合会会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
水野 雄二	神戸YMCA 総主事	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
村田 泰男	兵庫県商工会議所連合会専務理事	平成 22 年 12 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
室崎 益輝	関西学院大学総合政策学部教授、ひょうごボランティアプラザ所長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
森本 洋平	日本労働組合総連合会兵庫県連合会会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
矢田 立郎	神戸市長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
山口 徹夫	兵庫県漁業協同組合連合会専務理事	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
山下 淳	神戸地域ビジョン委員会委員長、関西学院大学法学部教授	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
山本 建志	西播磨地域ビジョン委員会委員長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
米山 清美	NPOと行政の子育て支援会議代表幹事	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日

参考資料3 - 3

地域づくりに関わる三百人ヒアリングに協力いただいた方々

豊かな暮らし

[家族や人のつながりの変化]

- ・京都大学教授
- ・皇學館大学教授
- ・関西学院大学教授

[地域で子育て]

- ・おやじーず（明石市錦ヶ丘小学校区）

[青少年育成]

- ・神出学園
- ・神戸フリースクール

[地域コミュニティ]

- ・住吉呉田まちづくりの会（神戸市）
- ・東山台コミュニティ協議会（西宮市）
- ・中山台コミュニティ、クラレ不動産(株)宝塚営業所（宝塚市）
- ・井吹台ふれあいまちづくり協議会（神戸市）
- ・高取台サンハイツ自治会（神戸市）
- ・丹波まちづくりプロジェクト（丹波市）
- ・鴨庄ふれあいバス（丹波市）
- ・地域コミュニティ・レストラン「梅吉亭」（西脇市）

[高齢者・障害のある人・介護の安心]

- ・兵庫県宅老所・グループホーム・グループハウス連絡会
- ・認知症高齢者グループホーム「くりあん」（豊岡市）
- ・認知症高齢者グループホーム「さわやか」（尼崎市）
- ・通所型デイサービスセンター「鹿塩の家」（宝塚市）
- ・宅老所「銀ちゃんの家」（豊岡市）
- ・宅老所「光明の家」（宝塚市）
- ・宅老所「第2よりあい」NPO 笑顔（福岡市）
- ・高齢者支援 NPO 法人「阪神高齢者障害者支援ネットワーク」
- ・介護者支援 NPO 法人「つどい場さくらちゃん」
- ・要介護者が共同で暮らすグループハウス運営者（グループハウス尼崎）
- ・兵庫県介護支援専門員協会
- ・高齢者の在宅生活を支えるコミュニティソーシャルワーク
- ・「たむらソーシャルネット」
- ・高齢者施設「ゆいま～る伊川谷」
- ・異なる世帯が共に暮らすコレクティブハウス「悠遊館」
- ・障害のある人を支援する NPO 法人「アップストリーム」

[高齢者の自立]

- ・老人ホームとの連携事業を展開する大学関係者（関西大学文学部）
- ・さまざまな地域活動に取り組む高齢者（阪神北地域見本市にて）
- ・NPO 法人しゃらく
- ・年齢上限なしで雇用する企業「(株)井沢鉄工所」

[雇用・ワークライフバランス]

- ・人材派遣会社「(株)パソナ」
- ・登録派遣で受付業務に従事する女性「川崎ライフコーポレーション」
- ・ワークライフバランス実現をめざす企業「(株)協同病理」
- ・企業に勤務する女性
- ・パート勤務から正社員へ転換した女性「モロゾフ(株)」
- ・ワークライフバランス実現を目指す企業「P & G」
- ・女性の在宅ワークを支援する NPO 「ぺるる」
- ・学童保育に取り組むまちづくり協議会「長尾すぎの子クラブ」

[社会的企業・起業家]

- ・コミュニティビジネスを起業した若者「パソコン活用隊」
- ・アートに生きがいを見つけた若手アーティスト「アトリエ莓小屋」
- ・外国人支援を行うNPO代表者「たかとりコミュニティセンター」
- ・「フードバンク関西」
- ・学生時代に起業した若手経営者「株SRC」
- ・NPO向けの融資を展開する金融機関「近畿ろうきん」
- ・大学生の就業意識（ひょうご未来塾の大学生たち）
- ・中間支援法人「ソーシャルデザインファンド」を立ち上げた若手起業家

[「農」を巡るしごと]

- ・Iターンで農園経営を始めた高齢者「みぎた農園」
- ・農家経営にやりがいを求める若者「みぎた農園」
- ・「オーガニックレストラン愛農人」
- ・「丹波みのりの会」の4人の若手農業者
- ・農山村と大学の交流・連携を進める「関西大学丹波青垣フィールド」

世界化

[人材集積・育成]

- ・(財)関西・産業活性化センター（ネオクラスター推進共同体）
- ・神戸国際大学教授
- ・JOTC
- ・ナイスプレゼンツ

[外国企業]

- ・ダイアシスジャパン(株)
- ・(有)エフ・ビー・シー
- ・(株)イムベックケミカルズ謙信洋行
- ・IKEA ポートアイランド
- ・(株)リジョングループ
- ・上海潤東バイオテクジャパン

[外国人県民]

- ・SPring-8台湾ビームライン研究者
- ・神戸レガッタ・アンド・アスレチック・クラブ
- ・(特)ピース・ゲーム
- ・駐日フィンランド大使

[小さな世界企業]

- ・浜田化学(株)
- ・(株)エコウィン
- ・エヌ・イー・ティ(株)
- ・オプト(株)
- ・ナカシマプロペラ本社

[ものづくり企業]

- ・フジプレアム(株)
- ・新明和工業(株)
- ・甲南大学教授
- ・メック(株)：ユニット会議ゲストスピーカー
- ・兵庫県立大学教授
- ・丸源太田および但東町商工会

[環境]

- ・加西市廃食用油リサイクル事業
- ・神戸大学統合バイオリファイナーセンター
- ・NPO 法人ゼロ・ウェイストアカデミー前事務局長

[芸術文化・教育]

- ・関西学院大学教授
- ・神戸芸術工科大学事業推進課
- ・ジェネオンエンタテインメント(株)
- ・学校法人武庫川学院武庫川女子大（甲子園会館）
- ・ひょうご大学連携推進協議会

- [デザイン]
 - ・ 県立工業技術センター（プロダクトデザイン関連）
 - ・ デザインオフィスA 4
 - ・ (株)クールアース
- [まちづくり]
 - ・ 住みコミュニケーションプロジェクト
 - ・ 日本政策投資銀行
- [農林水産]
 - ・ アグリス成城
 - ・ 岡山県西粟倉村
 - ・ Flowing Karasuma Café Dining
- [社会企業]
 - ・ NPO 法人デジタル・サーカス
 - ・ ソーシャルイノベーション
 - ・ 株式会社チャイルドハート
- [国際貢献]
 - ・ 神戸国際ハーモニーアイズ協会
 - ・ I G E S（地球環境戦略研究機関）関西センター
 - ・ アジア防災センター
- [多文化共生]
 - ・ KFC 神戸定住外国人支援センター
 - ・ メディケア・ヒューマン株式会社
 - ・ 甲南大学文学部教授

地域構造

- [自然エネルギー]
 - ・ NPO 法人地域づくり工房（長野県大町市）
 - ・ 坪山集落（長野県北安曇郡小谷村）
 - ・ おひさま進歩エネルギー株式会社（長野県飯田市）
 - ・ 葛巻町総務企画課（岩手県岩手郡葛巻町）
 - ・ NPO 法人岩手子ども環境研究所（岩手県岩手郡葛巻町）
 - ・ 社団法人葛巻町畜産開発公社（岩手県岩手郡葛巻町）
 - ・ 葛巻町農林環境エネルギー課（岩手県岩手郡葛巻町）
 - ・ 三菱重工業株式会社神戸造船所
 - ・ 京都大学大学院教授
 - ・ 兵庫県立大学教授
 - ・ 株式会社日本オフセットデザイン創研
- [多自然居住地域の課題群]
 - ・ 明延地区（養父市大屋町）
 - ・ 小路頃地区（養父市関宮町）
 - ・ 目高地区・金子地区（佐用町）
 - ・ 新潟県長岡市
 - ・ 神戸大学工学部助教授
 - ・ 口藤集落・奥赤集落（豊岡市但東町）
 - ・ 須野谷集落・段集落・田久日集落（豊岡市竹野町）
 - ・ 金山廃村（豊岡市日高町）
 - ・ 上下小倉共有山管理組合（丹波市柏原町）
 - ・ 岩座神地区ほか（多可町加美区）
 - ・ 明延地区（養父市大屋町）
 - ・ 八鹿町中心市街地活性化推進連絡協議会（養父市）
 - ・ 宮城県丸森町
 - ・ 京都府美山町
 - ・ NPO 法人「神楽の郷」（丹波市神楽地区）

[都市地域の課題群]

- ・UR 都市機構関西支社
- ・神戸市地域力強化推進課
- ・西宮市市民活動支援課ほか
- ・長田神社前商店街振興組合
- ・武庫川団地自治会
- ・尼崎地域・産業活性化機構
- ・野田北ふるさとネット
- ・NPO 法人ワット神戸
- ・尼崎市都市政策課
- ・三木市企画政策課
- ・相生市企画広報課
- ・加古川市政策企画課
- ・マックスバリュ西日本株式会社
- ・姫路市総合計画推進室
- ・阪急不動産株式会社
- ・岡山大学教授
- ・岡山大学教授
- ・高松市丸亀町商店街振興組合
- ・UR 都市機構神戸西開発事務所
- ・大阪大学教授
- ・株式会社イーエスプランニング
- ・昭和住宅株式会社
- ・大阪コミュニティ財団
- ・神戸芸術工科大学学長
- ・株式会社プレサンスコーポレーション
- ・NPO法人アグリサポート三田会
- ・原始人会（加西市）
- ・株式会社グレースファーム、神姫バス株式会社
- ・大阪市立大学大学院教授
- ・大和まちづくり協議会（川西市）
- ・JTB 首都圏
- ・首都大学東京准教授
- ・NPO 法人志木の輪（埼玉県）
- ・千葉大学大学院准教授
- ・駄菓楽箱（三木市）
- ・有限会社スタチオ・カタリスト（神戸市）
- ・関西学院大学准教授

[空間活用]

- ・明延地区（養父市大屋町）
- ・沼島地区（南あわじ市）
- ・出合地区（養父市）
- ・八木地区（養父市八鹿町）
- ・大蔵地区（朝来市）
- ・ささ嘗農（たつの市）
- ・高橋地区（豊岡市）
- ・遠阪地区（丹波市）
- ・但馬醸造株式会社（養父市）

[商店街]

- ・大阪学院大学教授
- ・豊岡駅通商店街振興組合（豊岡市）
- ・宵田商店街振興組合（豊岡市）
- ・リベル商店街振興組合（尼崎市）
- ・NPO 法人スマイル竹谷新田
- ・加古川寺家町商店街振興組合（加古川市）
- ・水道筋商店街協同組合（神戸市）
- ・関西大学商学部准教授
- ・かこがわ活性化プロジェクト委員会「チームかけはし」



図表等索引

第2部 兵庫の特性と潮流変化

2 ビジョン策定後顕著になった時代潮流

(1) 人口減少社会の到来

図表 2-1-1	p16
総人口の推移予測（兵庫県）	
図表 2-1-2	p17
年齢3区分人口の推移予測（兵庫県）	
図表 2-1-3	p18
一般世帯数の推移予測（兵庫県）	
図表 2-1-4	p18
高齢単独世帯数(75歳以上)の推移予測（兵庫県）	
図表 2-1-5	p19
市区町単位の人口推移予測（2005年 2040年の増減率）	
図表 2-1-6	p19
合計特殊出生率の推移	
図表 2-1-7	p20
生涯未婚率と合計特殊出生率の推移（兵庫県）	
図表 2-1-8	p20
人口の自然増減の推移予測（兵庫県）	
図表 2-1-9	p21
転入者・転出者数の推移（兵庫県）	
図表 2-1-10	p21
年齢別社会増減（2000年 - 2005年）	
図表 2-1-11	p22
就業者数の推移予測	
図表 2-1-12	p22
就業者の年齢構成の推移予測	
図表 2-1-13：出生率が上昇した場合	p23
合計特殊出生率の推移予測	
図表 2-1-14：出生率が上昇した場合	p23
県人口の推移予測（推計結果比較）	
図表 2-1-15：出生率が上昇した場合	p23
65歳以上人口比率の推移予測（推計結果比較）	

(2) 価値観や豊かさの変容

図表 2-2-1	p24
高齢者と思う年齢の推移（兵庫県）	
図表 2-2-2	p25
年代別非正規雇用割合（2007年・兵庫県）	

図表 2-2-3	p26
三世同居世帯比率の変化（兵庫県）	

(3) 世界経済の多極化と複雑化

図表 2-3-1	p27
名目GDPの世界総額の推移予測	
図表 2-3-2	p28
日本のアジア現地法人企業数	
図表 2-3-3	p28
兵庫県内企業の海外進出状況	
図表 2-3-4	p28
年代別出国率の推移	

(4) 地球の限界

図表 2-4-1	p29
世界の穀物需要量の見通し	
図表 2-4-2	p30
世界のエネルギー需要の将来見込み	
図表 2-4-3	p31
兵庫県版レッドリスト 2010（維管束植物）	
図表 2-4-4	p31
ニホンジカの農業被害程度	
図表 2-4-5	p31
シカによる農業被害額の推移	

(5) 情報化の光と陰

図表 2-5-1	p32
年齢階層別 インターネット利用率（全国）	
図表 2-5-2	p33
インターネットを利用して受けた被害状況（全国）	

(6) 公と民をめぐる変化

図表 2-6-1	p34
兵庫県の特定非営利活動法人認証数（累計）	
図表 2-6-2	p36
国・地方の長期債務残高の推移	

第4部 見えてきた課題群

1 「豊かな生活」を考えるうえでの課題

図表 4-1-1	p50
現在の暮らしを豊かだと思ふ人の割合	
図表 4-1-2	p50
住んでいる地域が豊かだと思ふ人の割合	
図表 4-1-3	p50
住んでいる地域に関して都市部と農村部でかい離の大きい項目	
図表 4-1-4	p50
豊かさの実現のために重要だと考える項目と年代別の傾向	
図表 4-1-5	p51
単独世帯と夫婦と子世帯推計(兵庫県)	
図表 4-1-6	p51
2040年までの高齢化に係る変化の度合い	
図表 4-1-7	p51
単独世帯年代別構成比(兵庫県)	
図表 4-1-8	p52
全県、神戸市、但馬地域()世帯構成割合の推移予測	
図表 4-1-9	p52
要介護者数推計(兵庫県)	
図表 4-1-10	p52
老後に不安を感じる人の割合	
図表 4-1-11	p53
地域でのつきあいの状況(平成20年・兵庫県)	
図表 4-1-12	p53
地域の行事によく参加する人の割合	
図表 4-1-13	p54
地域の異なる世代の人とつきあいがある人の割合	
図表 4-1-14	p54
所得階層別の有業者比率の推移(兵庫県)	
図表 4-1-15	p55
年齢階層別、所得分布の比較(H9・H19)	
図表 4-1-16	p55
女性の年代別労働力率	
図表 4-1-17	p56
女性の離職理由(年齢層別・兵庫県)	
図表 4-1-18	p56
地域別・年代別女性労働力率	
図表 4-1-19	p56
しごとと生活の両立を推進するために特に必要なもの(平成21年・兵庫県)	

図表 4-1-20	p57
元気な高齢者数推計(兵庫県)	
図表 4-1-21	p57
65歳以上の高齢者雇用確保措置(兵庫県)	
図表 4-1-22	p58
主な就業理由(全国)	
図表 4-1-23	p59
自殺者数の推移	

2 「世界に開かれた兵庫」を考えるうえでの課題

図表 4-2-1	p60
世界人口の将来推計	
図表 4-2-2	p60
主要国の潜在成長率	
図表 4-2-3	p61
国・地域別輸出額の推移(兵庫県)	
図表 4-2-4	p61
県内企業の海外進出状況(兵庫県)	
図表 4-2-5	p61
産業別海外進出企業数(全国)	
図表 4-2-6	p61
地場産業企業数・生産額の推移(兵庫県)	
図表 4-2-7	p62
県内総生産内訳の推移(兵庫県)	
図表 4-2-8	p62
総生産の産業別シェアの推移(兵庫県)	
図表 4-2-9	p62
業種別従業者数の推移(兵庫県)	
図表 4-2-10	p63
県内事業所数の増減	
図表 4-2-11	p63
全産業民間従業者数の増減	
図表 4-2-12	p64
各地域の実質GDPの推移	
図表 4-2-13	p65
各地域の一人当たり実質GDPの推移	
図表 4-2-14	p66
県内地域別入込数の推移	
図表 4-2-15	p66
県内外国人旅行者数の国・地域別内訳の推移(兵庫県)	
図表 4-2-16	p66
兵庫県外国人県民インフォメーションセンターの相談状況	

図表 4-2-17 p67
自治体が実施する外国人の生活・就労
支援で問題となっていること

図表 4-2-18 p67
O E C D の学習到達度調査結果 (日本)

図表 4-2-19 p67
県内の高度な知的人材の数 (兵庫県)

図表 4-2-20 p68
高度外国人材の推移 (兵庫県)

図表 4-2-21 p68
高度外国人材の兵庫県と府県との比較
(対 H16 年比)

図表 4-2-22 p68
海外留学日本人学生数 (全国)

3 「持続する地域構造」を考えるうえでの課題

図表 4-3-1 p69
小規模集落内の空き家の状況

図表 4-3-2 p70
県内の小規模集落数の推移

図表 4-3-3 p70
2050 年までに近畿で居住地域の約 15%
が無居住化

図表 4-3-4 p70
小規模集落内の空き家の状況

図表 4-3-5 p70
県内の空き家数の推移

図表 4-3-6 p71
耕作放棄地面積の推移 (兵庫県)

図表 4-3-7 p71
県内の山林の所有形態および保有林面積
別経営体数

図表 4-3-8 p72
生活関連施設から 500m 未満に位置する
住居の割合

図表 4-3-9 p72
耕地面積に占める農地転用面積の割合

図表 4-3-10 p72
建物用地と人口密度の変化 (H9 H18)

図表 4-3-11 p73
加古川市南部における幹線道路沿いの開発

図表 4-3-12 p73
店舗数、販売額が減少する中で一人勝ち
のロードサイド型商業店舗

図表 4-3-13 p74
代表交通別トリップ数の構成比 (発生集
中量)

図表 4-3-14 p74
地方における路線バスの輸送人員は減少
傾向 (全但バスの輸送人員の推移)

図表 4-3-15 p75
大和団地 (川西市) の第二世代の将来の
居住地希望

図表 4-3-16 p75
2040 年までに耐用年数を超える鉄筋・鉄
骨コンクリート造住宅戸数、比率

図表 4-3-17 p76
高齢単身世帯数 (1 km メッシュ)

図表 4-3-18 p76
神戸阪神間で高い共同住宅の比率 (住宅
の建て方別世帯数 (平成 17 年))

図表 4-3-19 p77
6 階以上に住む共同住宅世帯数の割合
(H17 年 1 km メッシュ)

図表 4-3-20 p78
高齢単身世帯数・率 (兵庫県)

図表 4-3-21 p79
熱帯夜日数の推移

図表 4-3-22 p79
東南海・南海地震 震度分布

図表 4-3-23 p79
高層マンションの立地状況 (灘区、東灘
区)

図表 4-3-24 p80
兵庫県内の食料自給率 (2008 年)

図表 4-3-25 p80
再生可能エネルギー自給率 (2009 年)
都道府県別、県内市町別上位 5 位

図表 4-3-26 p81
排出源部門別温室効果ガス排出量の増加
割合 (兵庫県)

図表 4-3-27 p81
域際収支の推移 (産業部門別 : H12 H17)

図表 4-3-28 p81
預貸率の推移

図表 4-3-29 p82
集落の区長経験年数

図表 4-3-30 p82
県内社会資本ストックの維持更新費将来
推計 (兵庫県)



第5部 これからの兵庫の将来像

将来像1 人と人のつながりで自立と安心を育む

(1) 家族の絆の大切さと、結婚や出産、子育ての喜びを実感できる

p91	【図 表】	中学生が考える幸せ、豊かさ（H22 県内中学生アンケート（青年会議所実施））
p92	【図 表】	豊かな暮らしを実現するために重要だと思うもの（H22 県民モニター調査）
p92	〔県民の意見〕	地域の発展は家族が原点（兵庫みらいフォーラム）
p92	〔県民の意見〕	家族相互の信頼関係について（阪神北地域夢会議）
p92	【図 表】	同居、近居の推移（「美しい兵庫指標」県民意識調査）
p93	【図 表】	地域における子育て支援への参加（H18 第1回県民モニター「少子対策について」）
p93	【図 表】	子育てについて地域で支え合う雰囲気がある人の割合（「美しい兵庫指標」県民意識調査）
p93	= 事 例 =	ショートタイム社員制度を導入（神戸）
p93	= 事 例 =	まちづくり協議会がNPO法人を設立し学童保育（宝塚）
p93	= 事 例 =	父親が子育ての会を設置（明石）

(2) 地域全体が家族のようにつながり、豊かさや安心を実感できる地域まるごと家族が実現している

p94	= 事 例 =	地域の多世代の人が交代でシェフを務めるコミュニティレストラン（西脇）
p94	= 事 例 =	地域の空き家を高齢者が集まる場所として活用（神戸）
p94	= 事 例 =	隣人祭り（海外・フランス）
p94	= 事 例 =	地域に施設を開放している高齢者施設（神戸）
p95	【図 表】	暮らしを豊かにするために大切なこと（H19 第3回県民モニター）
p95	【図 表】	ボランティア活動の推移（社会生活基本調査）
p95	= 事 例 =	子どもから高齢者、障害のある人が集うデイサービス（富山）
p95	〔県民の意見〕	「豊かさ」を感じる時（阪神南地域夢会議）
p95	〔専門家の意見〕	人と人とのつながり、支え合いについて（時代潮流研究会）
p96	= 事 例 =	異なる世帯が助け合う暮らし（神戸）
p96	= 事 例 =	コミュニティ形成のための新たな共用空間の創出（大阪・堺）
p96	= 事 例 =	世代間同居（フランス）

(3) つながりにより安全安心のコミュニティが実現し、いざというときに孤立を防ぐセーフティネットが構築されている

p97	= 事 例 =	元気なうちに社会貢献をしながらケアが必要な老後に備えるしくみ（神戸）
p97	= 事 例 =	長屋のようなつながりのある住まいを提供するNPO（高砂）
p97	= 事 例 =	地域の高齢者に安心と食を届けるNPO（神戸）
p98	【図 表】	県内認知症高齢者数推計（兵庫県ビジョン課推計）
p98	【図 表】	成年後見制度市町村長申立件数の推移（最高裁判所事務総局家庭局資料）
p98	= 事 例 =	後見制度の普及を進め、人材を育成するNPO（神戸）
p98	【図 表】	リバースモーゲージ制度
p98	= 事 例 =	担保型リバースモーゲージ（兵庫県社会福祉協議会）
p98	= 事 例 =	権利移転型リバースモーゲージ（フランス）
p98	〔専門家の意見〕	リバースモーゲージの必要性について（将来像研究会）

p99	= 事 例 =	ニュータウンでの地域活動への巻き込み（神戸）
p99	= 事 例 =	大規模マンションの防災の取組（加古川）
p99	〔県民の意見〕	町内会単位での防災マップづくり（淡路地域夢会議）
p99	〔県民の意見〕	高齢者などに向けた避難地図づくり（淡路地域夢会議）
p99	〔県民の意見〕	障害のある人への協力の必要性（阪神北地域夢会議）
p100	= 事 例 =	不登校の子どもに学校外の居場所を提供するフリースクール（神戸）
p100	= 事 例 =	ひきこもりの若者に社会とのつながりの場を提供するNPO（大阪）
p100	= 事 例 =	身近なところで自殺のサインに気づき、見守る人材を養成
p100	= 事 例 =	自殺予防対策連絡協議会による取組（明石）

(4) 一人ひとりが大切にされ、共に生きる意識が高まる中、誰にとっても利用しやすいモノ、情報、サービスが普及するとともに、誰もが安全で快適に暮らせるまちが実現している

p101	【図 表】	製品を購入する際に、環境に配慮したものを選んでいる人の割合（「美しい兵庫指標」県民意識調査）
p101	= 事 例 =	持続可能性をコンセプトにした商品・サービス例
p101	= 事 例 =	介護付き旅行を企画・運営するNPO（神戸）
p101	= 事 例 =	誰もが使いやすい商品
p102	= 事 例 =	小規模高齢化集落への移動型販売の社会実験（佐用）
p102	= 事 例 =	地域を支えるコミュニティバス（神戸）
p102	【図 表】	県内運行地区の推移（累計）（兵庫県交通政策課資料）
p102	【図 表】	県内コミュニティバスの運営主体
p103	= 事 例 =	NGOの取組（県内）
p103	= 事 例 =	医療通訳システム（神奈川）
p103	= 事 例 =	施設、公共交通のバリアフリー化（県内）
p103	= 事 例 =	ユニバーサル社会づくり推進地区（県内）

将来像 2 兵庫らしい健康で充実した生涯を送れる社会を実現する

(1) 誰もが適切なアドバイスと多様なサービスのもと健康で暮らすことができる

p105	= 事 例 =	健康マイプラン 200 万人運動（県内）
p105	= 事 例 =	生活習慣病から市民を守る e-ウェルネスステーション（千葉）
p105	= 事 例 =	健康増進型ネットワーク事業（岩手）
p105	= 事 例 =	スポーツクラブ 21（県内全小学校区）
p106	【図 表】	居住継続の意向：本県（H20 住生活総合調査）
p106	【図 表】	虚弱化したときの居住形態（厚生労働省 H17 高齢者の住宅と生活環境に関する調査）
p106	= 事 例 =	医療、介護、住居の一体的運営（福崎）
p106	= 事 例 =	質の高い地域医療を支える総合病院を核とした安全安心の確保（但馬地域）
p107	= 事 例 =	民家を改装してホームホスピスを運営するNPO（尼崎）
p107	= 事 例 =	介護する人を支える場を提供するNPO（西宮）

(2) 感動や潤いをもたらす歴史、文化、芸術、学びが生活に根づいている

p108	= 事 例 =	廃校再生事業によるアートプロジェクト（淡路）
p108	= 事 例 =	文化会館運営の住民参加（多可）
p108	= 事 例 =	若手芸術家の育成を支援（神戸）
p109	= 事 例 =	北はりま田園空間博物館（西脇、多可）

p109	= 事 例 =	住民の手で農村歌舞伎を復活（養父）
p110	= 事 例 =	生涯学習での学びを生かしNPOを立ち上げた高齢者（川西）
p110	= 事 例 =	大学と連携し学びの場を提供する老人ホーム（神戸）
p110	〔専門家の意見〕	イギリスの事例：サード大学の取組（大学教授）
p110	〔専門家の意見〕	北欧の事例：スタディ・サークルの取組（日本生涯教育学会）
p110	= 事 例 =	まちなかの廃校利用で学びの場づくり（神戸）

(3) 自然や農、食を楽しむ新しいライフスタイルが広がっている

p111	= 事 例 =	「いなか暮らし塾」での農村情報交換（朝来）
p111	= 事 例 =	空き家バンクによる二地域居住の取組（県内）
p111	= 事 例 =	集落の学生生活の拠点「若洲（わかす）学生村」（佐用）
p111	〔県民の意見〕	都会の人が来てくれるのは歓迎（豊岡市須野谷）
p111	〔専門家の意見〕	学生に農村の面白さを意識づける必要性（2040年の兵庫研究会）
p112	【図 表】	楽農生活交流人口数の推移（県内）
p112	= 事 例 =	滞在型体験農園施設（クラインガルテン）
p112	= 事 例 =	山村留学（神河）

(4) 年齢や性別、障害の有無、国籍、文化の違いなどにかかわらず、誰もがいつまでも主体的に地域や社会で活躍している

p113	【図 表】	住んでいる地域は高齢者や障害者にも暮らしやすいと思う人の割合（「美しい兵庫指標」県民意識調査）
p113	【図 表】	バリアのない社会づくりのために重要なこと（「美しい兵庫指標」県民意識調査）
p113	〔県民の意見〕	小さい頃から、対等にふれあえる場づくり（長期ビジョン推進委員会）
p113	〔県民の意見〕	子どもの頃から障害のある人とのふれあいが大事（淡路地域夢会議）
p113	= 事 例 =	工房が人と人、心と心をつなげる場に（神戸）
p114	【図 表】	義務的時間の減少、自由時間の増加（総務省社会生活基本調査）
p114	【図 表】	本県のボランティア活動時間の推移（社会生活基本調査）
p114	〔県民の意見〕	若者が地域づくりの意見交換に参加できる工夫（東播磨地域夢会議）
p115	= 事 例 =	民間企業経験を生かしている若手の社会起業家（宝塚）
p115	= 事 例 =	生涯学習講座などの学びを生かしNPOを立ち上げた高齢者（川西）
p115	【図 表】	県立大学の社会人入学者数（兵庫県大学課資料）
p116	【図 表】	高齢者と思う年齢の推移（「美しい兵庫指標」県民意識調査）
p116	【図 表】	少子・高齢社会における高齢期の望ましい生き方（「美しい兵庫指標」県民意識調査）
p116	【図 表】	高齢者の採用を増やす理由（H16厚生労働省 高年齢者就業調査）
p116	= 事 例 =	定年がなく熟練技術者が活躍（高砂市内企業）
p116	〔県民の意見〕	長年の職場勤めの知恵や技能をボランティア等で活用できるしくみ（東播磨地域夢会議）
p116	〔県民の意見〕	経験と知恵が豊富な高齢者は大きな戦力（神戸市内企業）

将来像3 次代を支え挑戦する人を創る

(1) さまざまな主体の連携により、産み、育てやすい環境が整い、子どもたちが生き生き育ち、遊び、学んでいる

p117	【図 表】	中学生が考える将来の職業（H22 県内中学生アンケート（青年会議所実施））
p118	【図 表】	住んでいる地域に誇りや愛着を感じる人の割合（「美しい兵庫指標」県民意識調査）
p118	〔県民の意見〕	祭りや伝統文化をキーワードとした地域づくり（長期ビジョン推進委員会）
p118	〔県民の意見〕	地域の子どもたちに経験や技術を教える場づくり（みんなの夢会議）
p118	= 事 例 =	地域ぐるみで子育て「まちの寺子屋教室」
p118	= 事 例 =	父親を中心とした子育て活動（加古川）
p118	= 事 例 =	働きたい時間を選び、キャリアアップを図る場を提供しているNPO（神戸）

(2) いのちやふるさとの大切さ、生きる力を学ぶ教育が展開されている

p119	= 事 例 =	地域の人材育成を地域で支援するトライやる・ワーク
p119	= 事 例 =	地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」
p119	= 事 例 =	小学校3年生を対象に実施される環境体験学習
p119	= 事 例 =	小学校5年生を対象に4泊5日以上で実施される自然学校
p120	= 事 例 =	インターンシップを通じて将来の職業を考える
p120	〔県民の意見〕	働いている大人から若者への発信について（神戸地域夢会議）
p120	= 事 例 =	ギャップイヤー制度（秋田）
p120	= 事 例 =	インターンシップ、ボランティアに参加する学生の戦略的休学（首都圏の大学）
p120	= 事 例 =	100年を越えるキリスト教教育
p120	= 事 例 =	江戸時代に源を持つ学校
p121	= 事 例 =	シティズンシップ・エデュケーション（イギリス）
p121	【図 表】	地域で不足している人材能力は何か（地域再生人材の養成に関する市町アンケート）
p121	= 事 例 =	大学での社会起業学科の設置
p121	〔専門家の意見〕	地域人材の掘り起こしが大切（大学教授）
p121	〔専門家の意見〕	実践機能を持った地域づくりの支援機構が必要（将来像研究会地域構造チーム）

(3) グローバルな共生力・協調性を身につけた人材が世界で活躍している

p122	【図 表】	第2外国語（英語以外）を行う県内高校数
p122	【図 表】	海外への羽ばたきを目的とした県立高等学校での取組

(4) 兵庫発の次代の人づくりのしくみとネットワークが世界に広がっている

p123	【図 表】	HUMAPによる海外大学とのネットワーク
p124	= 事 例 =	防災ワークショップ「イザ！カエルキャラバン」をグアテマラ、エルサルバドルで実施

将来像4 未来を拓く産業の力を高める

(1) 兵庫の技術と蓄積を生かした国際的な産学・産産連携が形成されている

p126	【図表】	輸出入総額の推移（兵庫県）（兵庫県統計課資料）
p126	【図表】	主要輸出品目（2009年・兵庫県）（財務省「貿易統計」）
p126	【図表】	神戸港の相手先別輸出入額の推移（神戸税関「県別貿易概況」）
p126	〔県民の意見〕	日本の製造業の強さについて（県内企業）
p127	【図表】	世界各国の人口に占める15～64歳人口比率の推移（国連資料）
p127	=事例=	成長分野で世界にはばたく企業（神戸）
p127	=事例=	関西広域バイオクラスタープロジェクト

(2) 国内外の創造的な人材が集い企業などの立地が進んでいる

p128	=事例=	X線自由電子レーザー施設SACLA（播磨科学公園都市）
p128	=事例=	大型放射光施設Spring-8（播磨科学公園都市）
p128	=事例=	京速コンピュータ「京（けい）」（神戸）
p128	【図表】	ひょうごSpring-8賞の受賞テーマ
p129	【図表】	工場立地動向推移（兵庫県）
p129	=事例=	神戸医療産業都市構想（神戸）
p129	=事例=	海外バイオクラスターとの連携（財団法人先端医療振興財団クラスター推進センター）

(3) 兵庫に根づく多彩なオンリーワン企業が育ち、活躍している

p130	〔県民の意見〕	海外市場の重視について（県内企業）
p130	【図表】	製造業輸出額の推移（兵庫県）
p130	=事例=	高度なオンリーワン技術を持つ企業（たつの）
p130	=事例=	医療機器開発に進出する中小企業（神戸）
p131	=事例=	環境にやさしい工法で海外展開する県内企業（西宮）
p131	=事例=	環境と経済が共鳴するまちづくりに貢献する企業（豊岡）
p131	=事例=	熟練の木製ハンガーを製作する県内企業（豊岡）
p131	=事例=	伝統技術とデザインのコラボレーション（豊岡）
p131	〔専門家の意見〕	ものづくりとデザインについて（県立工業技術センター）
p131	〔専門家の意見〕	ユニバーサルデザインなどの観点からのデザインについて（県内大学教授）

(4) 西日本・東日本が自立しながら補完し合う産業ネットワークの構築に兵庫が大きな役割を果たしている

p133	=事例=	産業構造の多極化を担う基盤の充実
------	------	------------------

将来像5 地域と共に持続する産業を育む

(1) 地域産業が固有の付加価値により発展し、地域の魅力を高めている

p135	【図表】	全国的に主要な地位を占める兵庫の地場産業（平成22年度版「兵庫県の地場産業」）
p135	【図表】	清酒の海外向け輸出実績（数量）の推移（日本酒造組合中央会資料）
p136	=事例=	「線香」の新しい魅力発見（淡路）
p136	=事例=	オーダーメイド車いすを提供（神戸）

p136	= 事 例 =	地場産業とセレクトショップとのコラボレーション
p136	〔 県民の意見 〕	兵庫のそれぞれの地域の個性について（兵庫みらいフォーラム）
p136	〔 県民の意見 〕	海外で勝つためのメンテナンスなどのきめ細かいサービス（県内企業）
p137	= 事 例 =	古民家を活用した民宿（篠山）
p137	= 事 例 =	ご当地グルメでまちおこし
p137	〔 県民の意見 〕	神戸は映画の作り手にとって魅力的（映画制作プロデューサー）

(2) 多彩な地域資源をつなぐツーリズムで地域ににぎわいが生まれている

p138	【 図 表 】	県内外国人旅行者数の推移（国際観光振興機構 訪日外客実態調査）
p138	【 図 表 】	地域別観光客入込数の推移（H21 年度観光客動態調査（兵庫県産業労働部））
p138	= 事 例 =	鉱山跡を観光資源として活用（養父）
p139	〔 専門家の意見 〕	産業遺産群の活用について（地域空間再生検討チーム）
p139	= 事 例 =	まちなみと共存する店舗展開（神戸）

(3) 高度な経営基盤により力強い産業としての農林水産業が再生し、食の自立を支えている

p140	【 図 表 】	認定農業者数、集落営農組織化集落数の推移、担い手への農地利用集積率の推移（兵庫県農業経営課資料）
p140	【 図 表 】	企業等の農業参入の状況（県内）（兵庫県農業経営課資料）
p141	= 事 例 =	都市への植物工場の立地
p141	【 図 表 】	森林の所有形態の割合（2010 年世界農林業センサス）
p141	【 図 表 】	保有山林面積規模別でみた林業経営体の割合（2010 年世界農林業センサス）
p141	【 図 表 】	森林管理 100% 作戦（兵庫県）（兵庫県農政環境部資料）
p142	【 図 表 】	県内の養殖業の種類別生産量の推移
p142	〔 県民の意見 〕	水産物資源は貴重な地域資源（淡路地域夢会議）
p142	= 事 例 =	森林の一括管理による大規模間伐の実施（丹波）
p142	= 事 例 =	中山間地域等直接支払制度を活用した集落間連携
p142	= 事 例 =	ため池の浚渫に取り組んでいる漁業者（淡路）
p143	【 図 表 】	県内総生産（名目）における農林水産業及び関連産業の構成比（県民経済計算）
p143	= 事 例 =	地域プレミアム食品の開発をめざした地元産完熟小麦の栽培（たつの）
p143	= 事 例 =	広がりはじめたファーマーズマーケット（神戸）
p144	〔 県民の意見 〕	自然から得られる産物を販売（中播磨地域夢会議）
p144	【 図 表 】	農林水産品の輸出額の推移（全国）（農林水産物・食品の輸出実績）
p144	= 事 例 =	安全安心な県産品を海外へ（南あわじ）
p144	= 事 例 =	「有機の里」に世界が学ぶ（丹波）
p144	【 図 表 】	県内木材加工業における丸太需要量に占める県産丸太供給量の割合（木材需給報告書）
p144	= 事 例 =	兵庫木材センターの始動（宍粟）

(4) 暮らしを豊かにする新たな生活産業が成長するとともに地域商業が再生している

p145	= 事 例 =	村営ふれあいマーケット（神河）
p145	= 事 例 =	まちとむらをつなぐ移動販売（佐用）
p145	= 事 例 =	地域の協働で移動手段を確保（宍粟）
p146	= 事 例 =	NPO の資金調達等を支援（宝塚）
p146	= 事 例 =	兵庫県立大学「経済学研究科地域公共政策専攻」
p146	〔 専門家の意見 〕	地域にあるビジネスチャンスのセットアップ（ソーシャル・デザイン・

		ファンド)
p147	= 事 例 =	空き店舗を活用して回遊性を強化(篠山)
p147	= 事 例 =	核店舗の集客力によりにぎわう商店街(神戸)
p147	〔県民の意見〕	核店舗と周辺店舗の相乗効果(水道筋商店街)
p148	= 事 例 =	中心市街地の活性化の取組(豊岡)
p148	= 事 例 =	サブリースを活用し空店舗を廉価に貸し出し(加古川)
p148	= 事 例 =	民家を改装したホームホスピス(尼崎)
p148	〔専門家の意見〕	中心市街地活性化のテーマ、コンセプトづくり(県内食料小売販売企業)
p148	〔専門家の意見〕	シャッター街を普通のまちなみに(大学教授)

将来像6 生きがいにあふれたしごとを創る

(1) 社会的起業などの社会貢献型のしごとが広がっている

p150	= 事 例 =	県内ヒアリングの事例から(社会起業家、NPOの立ち上げ)
p150	【図 表】	拡大する社会的起業の売上高及び従業員数
p151	【図 表】	公共サービス(医療、教育等)関連県内GDP
p151	〔専門家の意見〕	社会的起業の役割について(県内大学教授)
p151	= 事 例 =	市民・団体出資によるNPOバンク(東京)
p151	〔専門家の意見〕	NPOとの協力関係を継続する融資(県内NPO理事長)
p151	= 事 例 =	県内ヒアリングの事例から(宝塚・NPO)
p152	= 事 例 =	介護付き旅行を企画・運営するNPO(神戸)
p152	= 事 例 =	地域の高齢者に安心と食を届けるNPO(神戸)
p152	〔県民の意見〕	配食サービスの意義について(県内NPO理事長)
p152	〔県民の意見〕	要介護者の増加と介護保険外サービスの増加(県内介護事業者)
p152	= 事 例 =	ショップモビリティセンター(長崎)
p153	〔専門家の意見〕	まちづくりは「人づくり」(大学教授)
p153	〔専門家の意見〕	実践機能をもつ地域づくりの支援機構を(将来像研究会地域構造チーム)
p153	= 事 例 =	「共有の森ファンド」(岡山・西粟倉)
p153	= 事 例 =	マイ箸の利用を推進(県内)
p153	【図 表】	サステナブル商品を使ってみたい人の割合

(2) 兵庫発の人材がビジネス、貢献などのさまざまな分野で国内外に飛躍している

p154	= 事 例 =	「匠」の技術を伝承(相生)
p154	= 事 例 =	特色ある専修学校教育(神戸)
p154	= 事 例 =	即戦力となる職業訓練の実施(神戸)
p154	= 事 例 =	社会起業学科の設置(県内)
p155	= 事 例 =	ギャップイヤー制度(秋田)
p155	【図 表】	青年海外協力隊の派遣実績
p155	【図 表】	HUMAPによる海外大学とのネットワーク(再掲)
p156	【図 表】	県内の学術・研究機関、科学研究者数
p156	【図 表】	JETプログラムの兵庫県受入実績(市町含む)

(3) 誰もが生きがいを持って働ける環境が充実している

p157	= 事 例 =	廃校舎を活用し、地域に溶け込みながら就業訓練を実施(豊岡)
p157	= 事 例 =	パーソナル・アドバイザー(海外・イギリス)
p157	= 事 例 =	女性のキャリア支援に取り組むNPO(神戸)(再掲)
p158	= 事 例 =	地域のコミュニティレストランで働く(尼崎)

p158	= 事 例 =	障害のある人たちが主役の事業運営（神戸）
p158	= 事 例 =	障害者雇用のための国策会社「サムハル」（海外・スウェーデン）

(4) しごとと生活が調和した複線型のライフスタイルが実現している

p159	= 事 例 =	同一労働・同一賃金（海外・スウェーデン）
p159	= 事 例 =	多様就業型ワークシェアリング
p159	= 事 例 =	ショートタイム社員制度を導入した企業（神戸）（再掲）
p159	= 事 例 =	子育て中の社員を対象にした独自の有給休暇制度をとる企業（神戸）
p160	= 事 例 =	インディペンデント・コントラクター（IC、独立業務請負人）
p160	= 事 例 =	協同労働を実現している企業組合（神戸）
p160	【図 表】	ボランティア活動時間の推移（兵庫県）
p160	【図 表】	兵庫県立大学の社会人入学者数
p160	= 事 例 =	サバティカル休暇制度（海外・スウェーデン）

将来像 7 人と自然が共生する地域を創る

(1) 地域間の連携により、自然環境の保全・再生・創造が進んでいる

p162	= 事 例 =	台風通過後の奥赤集落（豊岡）
p162	= 事 例 =	管理放棄された人工林（新温泉）
p162	〔専門家の意見〕	流域単位で結びつけるシステム（長期ビジョン推進委員会委員）
p163	= 事 例 =	森林の一括管理による大規模間伐の実施（丹波）
p163	= 事 例 =	ため池の浚渫などに取り組んでいる漁業者（淡路）
p163	= 事 例 =	アマモ場造成に取り組むNPO
p163	= 事 例 =	楽しみながら成ヶ島の環境を再生
p164	= 事 例 =	都市近郊の遊休農地を市民農園として活用（川西）
p164	= 事 例 =	都市近郊の森林管理へのボランティア
p164	= 事 例 =	緑化活動グループ等による花緑いっぱい運動
p164	= 事 例 =	企業活動による緑豊かな景観づくり
p165	= 事 例 =	企業のエコ活動をサポートする「企業の森づくり」制度
p165	= 事 例 =	企業の森「油井鎮守の森づくり」（篠山）
p165	= 事 例 =	兵庫の森林を活用したカーボンオフセットの取組（宍粟）

(2) 森林・農地の持つ多面的機能が良好に保たれている

p166	= 事 例 =	天然林に近い森林への誘導（針広混交林）
p167	【図 表】	新規就農者数の推移（累計・兵庫県）
p167	【図 表】	耕作放棄地面積の推移（兵庫県）
p167	〔県民の意見〕	農地の有効活用で自給率100%の実現を（みんなの夢会議）
p167	〔専門家の意見〕	農業を若い人に魅力ある働き場として再生（三木市企画政策課）
p167	= 事 例 =	新しい農業ベンチャー支援制度（淡路）
p167	= 事 例 =	農業研修を行う農業生産法人（姫路）
p168	【図 表】	企業等の農業参入の状況
p168	〔県民の意見〕	田舎で暮らし働く若者の事例（加西市の地域活動グループ）
p168	〔専門家の意見〕	農業と何かを組み合わせることの意義（地域空間再生検討チーム）
p168	= 事 例 =	農業の担い手のすそ野を広げる取組

(3) 生物多様性が保全・再生・創造され、野生動植物との共生が図られている

p169	【図表】	劣化する県内の生物多様性（動植物）
p169	【図表】	減少する県内のため池
p170	= 事例 =	「生物多様性保全プロジェクト」
p170	= 事例 =	都市での生物多様性を確保する取組（神戸）
p170	〔県民の意見〕	都市部での生物多様性や生態系の保全（長期ビジョン推進委員会委員）
p170	= 事例 =	うるおいのある水辺空間の創出（豊岡）
p171	= 事例 =	コウノトリと共生する地域づくり
p171	= 事例 =	獣害レンジャーへの学生などの参画

(4) 自然の恵みを無駄にしない社会構造となっている

p172	= 事例 =	農林水産物の地産地消への取組
p172	= 事例 =	「木材コーディネーター」の養成（丹波）
p172	= 事例 =	駆除したシカを有効活用（佐用）
p172	〔県民の意見〕	コウノトリ育むお米の広がり（みんなの夢会議）

将来像 8 低炭素で資源を生かす先進地を創る

(1) 再生可能なエネルギーの活用により低炭素化が進み、地域で自給力が向上している

p174	【図表】	関西における電源別発電量
p174	= 事例 =	太陽光発電
p174	= 事例 =	自給持続できる地域をめざす「あわじ環境未来島構想」
p175	= 事例 =	マイクログリッド実証実験
p175	= 事例 =	採光型、局面对応型の太陽電池モジュール（姫路）
p175	= 事例 =	太陽電池のシリコン層の薄型化（豊岡）
p175	= 事例 =	分譲住宅 100 戸に最新太陽光発電システムを搭載（神戸）
p175	〔専門家の意見〕	二酸化炭素排出量の「見える化」（長野県内の自然エネルギー発電事業者）
p176	= 事例 =	間伐材・製材端材等のチップ化による熱源利用等（多可）
p176	= 事例 =	食品廃棄物等のたい肥化（三木）

(2) 暮らしから産業活動まで環境負荷を低減するしくみが浸透している

p177	【図表】	兵庫県における低公害車の保有台数の推移
p177	= 事例 =	エコカーの積極的導入（県内）
p177	= 事例 =	充電スタンドなどのインフラ整備（淡路）
p178	= 事例 =	低床電池駆動路面電車の開発（神戸）（再掲）
p178	= 事例 =	自然からの受動的なエネルギーを生かしたエコハウス
p178	〔専門家の意見〕	エネルギー消費を抑える伝統的な知恵（将来像研究会地域構造チーム）
p178	= 事例 =	ビレッジホームズ（海外・カリフォルニア州）
p179	〔専門家の意見〕	多自然地域でアジア版のビレッジホームズを（将来像研究会地域構造チーム会議）
p179	〔専門家の意見〕	集落の安全安心としての自家エネルギー（将来像研究会地域構造チーム会議）
p179	= 事例 =	自転車の利用促進環境を整備（丹波篠山えこりんプロジェクト（篠山））
p179	= 事例 =	民間によるカーシェアリング事業の拡大
p179	【図表】	わが国のカーシェアリング車両台数と会員数の推移
p180	= 事例 =	住民主導の手作りカーシェアリング（埼玉県）（再掲）
p180	= 事例 =	カーボンフットプリントを表示する企業の取組
p180	= 事例 =	インターネットで簡易に“うちエコ診断”

(3) 低炭素な都市構造に転換している

p181	= 事 例 =	下水汚泥の焼却排熱を利用した地域温水供給
p181	= 事 例 =	雪室による冷熱利用システム
p181	= 事 例 =	道路トンネル照明への太陽光発電の活用
p182	= 事 例 =	県施設への太陽光発電設備の導入
p182	= 事 例 =	下水汚泥から製造するバイオガスで路線バスを運転（神戸）
p183	= 事 例 =	公共交通の利用促進にパーク・アンド・ライド駐車場の整備
p183	= 事 例 =	鉄道駅周辺にカーシェアリングを展開
p183	= 事 例 =	市職員によるエコ通勤の実施（豊岡）
p184	= 事 例 =	BRTの整備によるバス輸送力の増強（神奈川・藤沢市）
p184	= 事 例 =	市町空き家バンクでの工場従業者への空き家のあっせん
p184	= 事 例 =	駅前レンタサイクル事業の展開
p184	= 事 例 =	車道上での自転車走行レーンの確保（尼崎）
p185	= 事 例 =	建築物の屋上緑化
p185	= 事 例 =	駐車場の緑化
p185	= 事 例 =	校園庭の芝生化
p185	【図 表】	「県民まちなみ緑化事業」による校園庭の芝生化状況
p185	= 事 例 =	都市内の空き地の公園としての活用
p186	= 事 例 =	クリマアトラス（都市環境気候図）
p187	= 事 例 =	高層木造建築物の研究
p187	= 事 例 =	屋根散水システム
p187	〔専門家の意見〕	ヒートアイランド対策の基本的な視点（大学教授）
p187	〔専門家の意見〕	風の道を邪魔する建物の撤去（2040年の兵庫研究会）

(4) 地域で持続的に資源を循環させるしくみが整う

p188	= 事 例 =	兵庫型デポジットシステムによる空き缶回収（県内）
p188	= 事 例 =	食品廃棄物の飼料化の取組（加西）
p188	= 事 例 =	あわじ菜の花エコプロジェクト（淡路）
p189	= 事 例 =	小型電気電子機器に含まれる有用金属（携帯電話の例）
p189	= 事 例 =	使用済携帯電話の回収・リサイクルの推進
p189	〔県民の意見〕	モノを大切にするライフスタイルの定着（阪神南地域夢会議）
p189	〔県民の意見〕	3Rではなく7Rに取り組むべき（兵庫みらいフォーラム）
p190	= 事 例 =	サブリースによる住み替え支援事業
p190	= 事 例 =	廃校の再利用による有効活用（養父）
p190	= 事 例 =	施設の近代化遺産としての「使いこなし」

将来像9 災害に強い安全安心な基盤を整える

(1) 地震・津波、風水害など自然災害に強い安全安心を支える基盤が整っている

p192	= 事 例 =	地震動予測と被害想定の実施
p192	【図 表】	本県に大きな影響を及ぼす想定地震の例（一部）
p193	= 事 例 =	高層建築物に大きな影響を与える長周期地震動に対する対応が急務
p194	= 事 例 =	実大三次元震動破壊実験施設（E-ディフェンス）で耐震性能の評価
p194	= 事 例 =	総合防災公園（災害時の広域防災拠点）
p195	= 事 例 =	環境防災緑地の整備
p195	= 事 例 =	県内の広域防災拠点の整備が進む

p196	= 事 例 =	災害に強い森づくり（流木等防止対策森林整備）
p197	= 事 例 =	治山・砂防施設の整備
p197	= 事 例 =	水田・農地の水源かん養機能
p198	= 事 例 =	武庫川で進める総合的な治水対策
p198	= 事 例 =	雨水の浸透面の増加による都市型水害発生リスク低減効果
p198	【図 表】	1時間降水量 50mm以上の発生回数（全国）

(2) 未曾有の災害に対して、いのちを守る、「逃げる」ことを重視した避難対策が十分になされている

p199	= 事 例 =	平常時から災害時要援護者情報を把握・共有する必要性
------	---------	---------------------------

(3) 大規模事故や感染症などへの危機管理に強い地域となっている

p200	= 事 例 =	「災害予防計画」における事前の備え
p200	= 事 例 =	「災害応急対策計画」における応急活動体制
p201	= 事 例 =	医薬品の確保
p201	= 事 例 =	健全な畜産経営は衛生対策から
p202	= 事 例 =	クラウドコンピューティングの有効活用による事業継続

(4) 災害に対する共助・公助の地域防災力が向上している

p203	= 事 例 =	自主防災に取り組むマンション（再掲）
p203	= 事 例 =	隣接する集客施設と防災協定を締結
p203	〔専門家の意見〕	地震時の高層マンションの孤立、避難所の収容能力等の課題について（大学教授）
p204	= 事 例 =	災害時要援護者を地域で共助する「支え合いマップ」の作成（佐用）
p204	〔県民の意見〕	「支え合いマップ」作成過程における地域の防災意識の向上（佐用町住民）
p205	= 事 例 =	県広域防災センターによる防災研修
p205	= 事 例 =	大学が防災人材を育てる動きも
p206	= 事 例 =	阪神間7市1町で防災訓練を実施
p206	= 事 例 =	東海・東南海・南海地震等大規模災害に備える「広域防災」
p206	〔専門家の意見〕	東日本大震災の発生や「関西広域連合」の発足を踏まえた地域連携のあり方（長期ビジョン推進委員会）
p206	〔専門家の意見〕	小規模災害をさまざまな面から捉えた安全安心の取組（長期ビジョン推進委員会）

(5) 一人ひとりが防災についての高い意識を持ち、自助・共助のしくみが整っている

p207	= 事 例 =	社会基盤学習を通じて自然と共存する防災・減災意識を醸成
p207	= 事 例 =	津波に対する防災意識の醸成を図る（南あわじ）
p207	= 事 例 =	住民参加で行う合同防災訓練（各市町単位）
p208	= 事 例 =	家族で「防災会議」を開いて事前の備えを
p208	= 事 例 =	災害時の迅速行動や避難後の情報共有に「防災手帳」を活用
p209	= 事 例 =	地震の長周期地震動へのマンションの備え
p209	= 事 例 =	沿岸地域での浸水被害への備え
p209	= 事 例 =	津波を想定したC Gから浸水被害への備えや対策を考える
p210	= 事 例 =	「震災の語りべ」による災害教訓の伝承
p210	= 事 例 =	過去の風水害の歴史から学ぶ

将来像 10 地域の交流・持続を支える基盤を整える

(1) コミュニティによる主体的・自律的な地域運営が活発になっている

p212	= 事 例 =	地域の課題に連携して取り組むコミュニティ組織（宝塚）
p212	= 事 例 =	ニュータウン開発で入居者が地区運営ルールづくり（神戸）
p212	= 事 例 =	NPOによる地域経営（丹波）
p213	〔専門家の意見〕	ビジネスモデルの提案や、やる気のある集落を抽出するしくみ（兵庫の将来像研究会）
p213	〔専門家の意見〕	小規模集落の森林や農地を一括して引き取る回収機構のしくみ（兵庫の将来像研究会）
p213	【図 表】	地域運営ルールの有無
p213	〔県民の意見〕	自治会の規約は特にないのが現状（豊岡市口藤の住民）
p213	〔県民の意見〕	点ではなく面になり、ネットワークで進める必要性（長田神社前商店街振興組合）
p213	〔県民の意見〕	難しい商店街の理事会運営（水道筋商店街協同組合）
p213	〔専門家の意見〕	世代の移り変わりを前提とした村のあり方の再考（大学教授）
p213	= 事 例 =	地域で走らせるコミュニティバス（神戸・東灘）
p214	= 事 例 =	我らの足は我らでつくる(地域デマンド交通の運営)（佐用）
p214	〔専門家の意見〕	住民みんなで支える地域の交通（大学教授）
p214	【図 表】	地域別NPO団体のうち、中間支援団体の数（平成23年10月時点・兵庫県）
p214	〔県民の意見〕	地域の大学を巻き込むイベント開催（阪神南地域夢会議）
p214	〔専門家の意見〕	滋賀県立大学・地域再生学講座の取組（大学教授）

(2) 地域づくりの人材育成や企業と地域との協働の輪が広がっている

p215	【図 表】	地域で不足している人材能力は何か
p215	= 事 例 =	兵庫県立大学「経済学研究科地域公共政策専攻」
p215	= 事 例 =	滋賀県立大学「近江環人地域再生学座」
p215	〔専門家の意見〕	まちづくりは「人づくり」(大学教授)
p215	〔専門家の意見〕	実践機能をもつ地域づくりの支援機構を(将来像研究会地域構造チーム)
p216	= 事 例 =	新しい学習「市民科」によるシティズンシップ教育（東京・品川）
p216	= 事 例 =	大手企業の社員がNPOとして地域の中小企業の経営を支援
p217	= 事 例 =	県内のホテルの社会貢献（神戸）
p217	【図 表】	環境報告書を作成している企業数（全国）
p217	= 事 例 =	フィールドワークコミッション
p217	〔専門家の意見〕	地域づくりに企業の参画を得ること（将来像研究会）

(3) 地域団体、NPOなどによる「新しい公」が地域を支えている

p218	【図 表】	県内のまちづくり協議会数の推移
p218	= 事 例 =	野田北ふるさとネット事務局（長田）
p218	〔県民の意見〕	既存の集落間の連携を図る協議会の設置について（豊岡市奥赤）
p218	〔県民の意見〕	地域の団体の縦割り、連携不足について（野田北ふるさとネット）
p218	〔県民の意見〕	接着剤の役割を果たすふるさとネットの取組（野田北ふるさとネット）
p219	= 事 例 =	「新しい公」の領域
p219	= 事 例 =	野田北部地区による市立駐輪場の指定管理
p219	〔専門家の意見〕	財産を持たない地区が財産形成するための初期投資について(大学教授)
p220	= 事 例 =	生まれ変わる丸亀町商店街（香川・高松）

p220	〔専門家の意見〕	土地の所有と利用の分離（丸亀町商店街振興組合）
p220	〔専門家の意見〕	店舗間の交流が少ない商店街の現状（丸亀町商店街振興組合）
p220	= 事 例 =	小口投資による資金調達で森林管理（岡山・西粟倉）(再掲)
p221	= 事 例 =	寄付基金事業によりNPO活動を資金的に支援（宝塚）(再掲)
p221	〔専門家の意見〕	地域にあるビジネスチャンスのセットアップについて（ソーシャル・デザイン・ファンド）
p221	= 事 例 =	市民のエコ活動などが地域づくり活動の資金として還元されるしくみ、「持続可能な地域づくりサポート基金・にしのみや」（西宮）
p221	〔専門家の意見〕	持続可能な地域づくりサポート基金の創設の効果（こども環境活動支援協会）

(4) 多彩な交流・物流を支える社会基盤が充実している

p222	【図 表】	高速道路六基幹軸、県内の公共交通網
p223	= 事 例 =	基幹道路網の整備推進
p223	= 事 例 =	暮らしでの交流を支える国道・県道・市町道の整備
p224	【図 表】	運行地区の推移（累計・兵庫県）
p224	【図 表】	コミュニティバスの運営主体 平成 23 年 3 月現在（兵庫県）
p224	= 事 例 =	NPOが運営し地域を支えるコミュニティバス（神戸）(再掲)
p224	〔県民の意見〕	高齢者の社会参加、交通の手段が非常に大事（丹波地域夢会議）
p224	〔専門家の意見〕	コミュニケーションが喜びや生きがいに（長期ビジョン審議会）
p225	= 事 例 =	既存社会基盤施設の老朽化対策の推進
p225	【図 表】	老朽施設の増加見通し（兵庫県）
p226	= 事 例 =	着実な施設の維持管理の実施
p226	= 事 例 =	住宅性能表示制度による長寿命化住宅
p226	= 事 例 =	マンション耐久性、可変性を高めるスケルトン・インフィル
p227	= 事 例 =	地域主体の情報発信
p227	= 事 例 =	地域SNSの広がり
p227	〔専門家の意見〕	田舎で情報通信技術を活用した仕事を（長期ビジョン推進委員会）
p228	【図 表】	小学校の統廃合による減少数（H6～H22 年度累計）
p228	【図 表】	統廃合により小学校数が半減（新温泉町）
p228	= 事 例 =	廃校での村カフェ（新温泉）
p228	〔県民の意見〕	廃校した校舎の再利用を（丹波地域夢会議）
p228	〔専門家の意見〕	小学校は地域のコミュニティの核（三木市企画政策課）
p229	= 事 例 =	多世代の住民が交代でシェフを務めるコミュニティレストラン（西脇）
p229	= 事 例 =	地域の空き家を高齢者が集まる場所として活用（神戸）
p229	= 事 例 =	淡路佐野運動公園でスポーツの交流
p229	= 事 例 =	廃校再生事業によるアートプロジェクト（淡路）(再掲)

(5) 公民連携により多様な手法での地域づくりが進み、より身近な県政となっている

p230	= 事 例 =	P F I の事業例
p231	〔専門家の意見〕	<ul style="list-style-type: none"> ・元気なお年寄りの活力を生かす取組の推進 ・兵庫の多様な活力を生かし、飛躍する戦略づくり ・地域経営の人材養成や体制強化の必要性 （平成 21 年度における行財政構造改革推進方策の実施状況等について（意見））
p231	= 事 例 =	広域的な行政連携・関西広域連合の設立

将来像 11 個性を生かした地域の自立と地域間連携で元気を生み出す

(1) 農山漁村では、空き空間が管理・活用され、豊かな個性を生かす村づくりが進められている

p233	= 事 例 =	奥銀谷地域自治協議会（朝来）
p233	= 事 例 =	住民ボランティアによるバスの運行（丹波）
p233	= 事 例 =	地元産品を使った商品を開発（多可）
p234	= 事 例 =	地域資源を地域のシンボルとして P R（北播磨地域）
p234	〔県民の意見〕	地域で株式会社をつくり、地元還元を（阪神北 H22 地域夢会議）
p234	= 事 例 =	村営ふれあいマーケット（神河）（再掲）
p234	= 事 例 =	移動販売車による生活品の提供（佐用）（再掲）
p234	〔県民の意見〕	既存の集落間の連携を図る協議会の設置について（豊岡市奥赤）（再掲）
p234	〔県民の意見〕	高齢者の社会参加、交通の手段が非常に大事（丹波地域夢会議）（再掲）
p234	〔専門家の意見〕	惣菜などの移動販売の取組（住民共同出資の雑貨店経営者）
p234	〔専門家の意見〕	コミュニケーションが喜びや生きがいに（長期ビジョン審議会）（再掲）
p235	= 事 例 =	旧日高町・金山集落の事例
p235	〔専門家の意見〕	集落からの撤退は、住民が意志決定すべき（兵庫の将来像研究会）
p235	〔専門家の意見〕	移住の受け皿（住居、サービス）づくりが先では（兵庫の将来像研究会）
p235	= 事 例 =	「関西大学丹波青垣フィールドスタジオ」（丹波）
p236	= 事 例 =	学生と地域をつなぐ市民活動団体（三田）
p236	〔県民の意見〕	都市との団体間の継続的な交流が重要（豊岡市奥赤）
p236	〔専門家の意見〕	地域に長期的に関わるしくみが必要（関西大学丹波青垣フィールドスタジオ研究員）
p236	= 事 例 =	T 型集落点検
p237	= 事 例 =	10 年後の集落点検づくり（豊岡）
p237	= 事 例 =	土地の棚卸し
p238	= 事 例 =	「あわじ環境未来島構想」の推進（再掲）
p238	= 事 例 =	農業と共存共栄するバイオエタノール製造（明石）
p238	= 事 例 =	農林水産物の地産地消への取組（再掲）
p238	〔専門家の意見〕	集落の安全安心としての自家エネルギー（将来像研究会 地域構造チーム会議）（再掲）
p239	【図 表】	集落へ 5 年以内に転居した人の生活要素に対する満足度
p239	【図 表】	県内空き家数の推移（2015 年（平成 27 年）以降は推計
p240	= 事 例 =	就農相談や農地探しの支援を行う N P O（丹波）
p240	= 事 例 =	農を介したむらとまちの交流による地域の活性化
p240	〔県民の意見〕	都会の人が来てくれるのは歓迎（豊岡市須野谷）（再掲）
p240	〔県民の意見〕	農業に付加価値をつけて、若い力を地域に
p240	〔専門家の意見〕	学生に農村の面白さを意識づける必要性（2040 年の兵庫研究会）（再掲）
p240	= 事 例 =	「いなか暮らし塾」での農村情報交換（朝来）（再掲）
p240	= 事 例 =	都市農村交流に取り組む地域の N P O（南あわじ）
p241	= 事 例 =	県内各地での空き家バンクによる二地域居住の取組（再掲）
p241	= 事 例 =	都市部では体験できない田舎ならではの貴重な体験（新温泉）
p241	= 事 例 =	廃校での芸術活動の展開
p241	= 事 例 =	ため池の浚渫などに取り組んでいる漁業者（再掲）
p241	〔県民の意見〕	より広域の集落間連携の必要性（豊岡市但東町住民）
p242	= 事 例 =	クライנגアルテン伊由の郷（朝来）（再掲）
p242	〔専門家の意見〕	田舎で情報通信技術を活用した仕事を（長期ビジョン推進委員会）（再掲）

(2) 疎住化が進む多自然地域などの地方都市では、まちなかへの生活機能の集約が進んでいる

p243	= 事 例 =	公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりへの取組（富山県富山市）
------	---------	----------------------------------

p243	【図 表】	地域を支える足として、コミュニティバス路線がバスの代替手段に
p244	= 事 例 =	幹線道路までの交通の足を確保するコミュニティバス（三木）
p244	= 事 例 =	駅近立地にこだわった高齢者賃貸住宅（福崎）
p245	= 事 例 =	質の高い地域医療を支える総合病院を核としたまちづくり（養父）
p245	〔県民の意見〕	核店舗と周辺店舗の相乗効果（水道筋商店街）（再掲）
p245	〔専門家の意見〕	中心市街地活性化のテーマ、コンセプトづくり（県内食料小売販売企業）（再掲）
p245	〔専門家の意見〕	まちの中心機能（市役所や病院など）の集約のあり方（大学教授）
p245	〔専門家の意見〕	シャッター街を普通のまちなみに（大学教授）（再掲）
p245	〔専門家の意見〕	病院と公共交通ネットワーク、商機能が核になる（2040年の兵庫研究会）
p245	〔専門家の意見〕	市役所、病院はまちなかの重要な要素（大学教授）
p246	【図 表】	D I D人口比率と労働生産性
p246	【図 表】	生産性の人口密度弾性値
p246	〔県民の意見〕	「郊外」を縮小するトレンドへ（地域SNS「ひよこむ」での意見）
p246	〔専門家の意見〕	まちを拡散させないことが重要（大学教授）
p246	〔専門家の意見〕	まちを集約して集中的な資源投下を（県内食品小売販売企業）
p246	〔専門家の意見〕	人口総量の分担などについて市民の合意形成を（大学教授）
p247	〔専門家の意見〕	過去から見る、都市が縮むとしたときのヒント（大学教授）
p247	〔専門家の意見〕	近代以降の構想（首都圏グリーンベルトなど）の再評価（大学教授）
p247	〔専門家の意見〕	まだら模様の収縮が始まる（2040年の兵庫研究会）
p247	〔専門家の意見〕	空き地を農地に変えていくまちづくり（2040年の兵庫研究会）
p247	【図 表】	空き地の発生形態
p248	= 事 例 =	中心市街地の活性化の取組（豊岡）（再掲）
p248	= 事 例 =	サブリース を活用し空店舗を廉価に貸し出し（加古川）（再掲）
p248	= 事 例 =	学校跡地が企業と地域のニーズに一致（養父）（再掲）

(3) 都市郊外のニュータウンは世代バランスがとれ、ゆとりとにぎわいのある空間になっている

p249	【図 表】	「高齢期の子ども世帯との現在の住まい方」の推移
p249	= 事 例 =	広がる近居・隣居の動き
p250	= 事 例 =	渦が森団地での住み替えの動向（神戸・東灘）
p250	= 事 例 =	高齢者と若い世代の入れ替え支援
p250	= 事 例 =	サブリースによる住み替え支援事業（再掲）
p250	= 事 例 =	リバースモーゲージによる住み替え支援事業
p251	= 事 例 =	集合住宅を改修したミングル住宅（再掲）
p251	= 事 例 =	隣の土地を取得して一体的に利用できるように
p251	= 事 例 =	共同住宅での二戸一改修
p251	= 事 例 =	あわじオープンガーデン（淡路地域）
p252	= 事 例 =	空き地での菜園（ファーミング）（川西）
p252	〔県民の意見〕	隣の空き地を活用した家庭菜園（川西市のあるニュータウン住民）
p252	〔専門家の意見〕	空き地を農地に変えていくまちづくり（2040年の兵庫研究会）（再掲）
p252	= 事 例 =	都市近郊の遊休農地の市民農園としての活用（川西）（再掲）
p252	【図 表】	2040年（平成52年）までに耐用年数を超える鉄筋・鉄骨コンクリート造住宅戸数
p253	= 事 例 =	浜甲子園団地の団地建替事業（西宮）
p253	= 事 例 =	団地ストック再生実証試験（大阪府堺市）
p253	= 事 例 =	Stadtumbau West（西部都市改造）事業（ドイツ）
p254	【図 表】	テレワークを導入している企業比率
p254	= 事 例 =	地域にこだわりを見せる社会的起業（宝塚）
p255	= 事 例 =	一般の民家でデイサービスを提供（宝塚）

p255	= 事 例 =	生活関連施設の徒歩圏への分散立地誘導による身近な職の創出
p255	〔専門家の意見〕	郊外に小さな職場が生まれ、生活圏が再構築（2040年の兵庫研究会）
p256	= 事 例 =	市民所有型のソーラー発電所（神戸）
p256	= 事 例 =	分譲住宅100戸に最新太陽光発電システムを搭載（神戸）（再掲）
p256	= 事 例 =	地域で発生する食品廃棄物等のたい肥化（三木）（再掲）

(4) 瀬戸内臨海部の都市では、大都市ならではの多選択・多参画型のまちづくりが進んでいる

p257	= 事 例 =	都心部への高齢者向けマンションの立地
p257	〔専門家の意見〕	昨今の都心の高層マンションは高齢者の夫婦や一人暮らしが多い（独立行政法人都市再生機構）
p257	〔専門家の意見〕	西宮北口駅前のタワーマンションではシニア層が購買者の過半数（関西の不動産業者）
p257	= 事 例 =	多世代が家族のように暮らしているコレクティブハウジング（再掲）
p258	= 事 例 =	敷地内に学生が住み、地域に施設を開放している高齢者施設
p258	= 事 例 =	地区計画等によるマンションへのファミリー層の共住
p258	= 事 例 =	非血縁関係のもの同士の共同居住（高砂）（再掲）
p258	〔専門家の意見〕	社会全体が高齢者を見守るシステムが必要。さまざまな人々の混合、複合が地域の強さを生む（2040年の兵庫研究会）
p258	【図表】	6階以上に住む共同住宅世帯数の割合（H17年1kmメッシュ）
p258	〔専門家の意見〕	マンション住人と周辺の既存自治会との連携が課題（東灘区役所）
p259	【図表】	統廃合による小学校区の広域化（神戸市）
p259	= 事 例 =	まちなかの廃校の有効利用によるコミュニティ融合の場づくり（神戸）（再掲）
p259	〔県民の意見〕	小学校と住民が集う諸施設を統合し、さまざまな世代が交流する機会を（H22学生プロジェクトプラン・コンペ）
p260	= 事 例 =	隣人祭り（海外・フランス）（再掲）
p260	= 事 例 =	マンション住人の自治会への積極加入呼びかけ（神戸）
p260	= 事 例 =	小規模集落との交流を図るマンションコミュニティ（神戸）
p260	= 事 例 =	自主防災に取り組むマンション（再掲）
p261	= 事 例 =	隣接する集客施設と防災協定を締結（再掲）
p261	〔専門家の意見〕	地震時の高層マンションの孤立、避難所の収容能力等の課題について（大学教授）（再掲）
p262	【図表】	明石市 中心市街地商店街の業態変化
p263	= 事 例 =	核店舗の集客力によりにぎわう商店街（神戸・水道筋商店街）
p263	= 事 例 =	テナントをコントロールする商店街（香川・高松市）
p263	〔専門家の意見〕	「市民のため」の公共空間としての中心市街地づくり（大学教授）
p263	〔専門家の意見〕	まちなかへの積極的な出店の動き（食料小売販売企業）
p263	〔専門家の意見〕	まちなかで、複数の店舗をつなげた「ショッピングセンター」づくり（大学教授）
p263	= 事 例 =	車道を狭めて歩道を拡幅（神戸）
p264	= 事 例 =	歩道の利用制限緩和
p264	= 事 例 =	車道上での自転車走行レーンの確保（尼崎）
p264	= 事 例 =	トランジットモール
p264	= 事 例 =	障害物設置による自動車の流入抑制
p264	= 事 例 =	駐車場の立地誘導によるコントロール
p264	= 事 例 =	自動速度制限装置（ISA）による市街地での自動車の速度抑制
p265	〔専門家の意見〕	若者世代が車を買わない傾向、交通行動が変化（大学教授）
p265	〔専門家の意見〕	地域のコミュニケーションをなくす車中心社会（大学教授）
p265	〔専門家の意見〕	高齢化とともに変わる歩行空間の意義（福祉のまちづくり研究所主任研究員）

p266	【図表】	尼崎市の土地利用変遷の類型化（面積割）
p266	= 事例 =	工場集積地の宅地化等の抑制（尼崎）
p267	〔専門家の意見〕	物流のチャンネルが豊富な兵庫県（県内食品リサイクル企業）
p267	〔専門家の意見〕	工場が集中する臨海部に近づく住宅地の住環境の問題（加古川市政策企画課）
p267	【図表】	オフィスビルの新規需要、供給面積の推移（神戸）
p267	【図表】	オフィスビルのストックの状況
p268	【図表】	神戸市中央区の事業所数の推移
p268	【図表】	神戸市中央区海岸通4丁目の人口の推移
p268	= 事例 =	オフィスビルから集合住宅への用途転換
p268	= 事例 =	オフィスの植物工場化（再掲）
p269	= 事例 =	店舗展開にとって重要なまちなみ
p269	= 事例 =	観光資源としての都市の夜景の魅力
p269	= 事例 =	都市機能の変化とまちなみの変容（神戸・中央区海岸通）
p269	〔専門家の意見〕	まちなみやコミュニティに配慮したまちづくりを（尼崎市役所）

(5) 地域資源が保存・継承され、地域への愛着が生まれ、地域の魅力となっている

p270	〔県民の意見〕	地域の歴史などを若い世代に楽しく引き継ぐ工夫が必要（但馬地域夢会議）
p270	〔県民の意見〕	地域資源マップづくりで感じられた新たな発見（阪神南地域夢会議）
p270	〔専門家の意見〕	地域への誇りや愛着をさらに強める契機となる取組（地域空間再生検討チーム）
p270	= 事例 =	古民家を活用した民宿（篠山）（再掲）
p270	= 事例 =	住民が地域の魅力を掘り起こしマップを作成（加東）
p271	〔専門家の意見〕	産業遺産群を活用した滞在型ツーリズムへの転換（地域空間再生検討チーム）
p271	= 事例 =	旧鉄橋を観光資源として活用（香美）
p271	= 事例 =	兵庫は祭りや歴史文化資源の宝庫
p272	【図表】	楽農生活交流人口数の推移（兵庫県）
p272	【図表】	地域別観光客入込数の推移（兵庫県）
p272	〔県民の意見〕	新しいスロートーリズムに取り組んではどうか（但馬地域夢会議）
p272	〔県民の意見〕	銀の馬車道から但馬の「鉾石の道」への広がり（中播磨地域夢会議）
p272	〔専門家の意見〕	八鹿町出合地区を生かした滞在型エコツーリズム（地域空間再生検討チーム）
p273	= 事例 =	地域資源のネットワーク化（いなみ野フットパス）
p273	= 事例 =	地域資源のネットワーク化（山陰海岸ジオパーク）
p273	= 事例 =	地域資源のネットワーク化（日本風景街道）
p273	= 事例 =	地域資源のネットワーク化（コウノトリを介した国際協力）

(6) 行政界を越えた地域間連携が進み、広域的に地域づくりができるようになっている

p274	= 事例 =	市町空き家バンクでの工場従業者への空き家の斡旋
p274	= 事例 =	「阪神地域えきバスまっぷ。」の発行（阪神地域）
p275	= 事例 =	公共交通軸の沿線に人口・都市機能を誘導した都市構造（富山）
p275	〔専門家の意見〕	富山の「串と団子」構造を参考にした都市機能の配分（大学教授）
p275	= 事例 =	まちづくり協議会が運行するコミュニティバス（三木）（再掲）
p275	= 事例 =	昼間使わないスクールバスを町民バスとして活用（新温泉）
p275	〔県民の意見〕	高齢者の社会参加、交通の手段が非常に大事（丹波地域夢会議）（再掲）
p275	〔専門家の意見〕	住民みんなで支える地域の交通（大学教授）

p276	= 事 例 =	東備西播定住自立圏による県境を越えた連携（赤穂市・上郡町・岡山県備前市）
p276	= 事 例 =	県境を越えて地域の魅力をPRする「大丹波」構想（兵庫県丹波・京都府丹波地域）
p276	= 事 例 =	関西広域連合の設立（再掲）

将来像 12 世界との交流を兵庫の未来へ結ぶ

(1) 兵庫がアジアにおける人材育成拠点を形成している

p278	【図 表】	第2外国語（英語以外）を行う県内高校数
p278	= 事 例 =	青年洋上大学海外養成塾の実施
p278	= 事 例 =	社会起業学科の設置
p278	= 事 例 =	大学と連携した拠点機能の強化
p279	【図 表】	HUMAPによる海外大学とのネットワーク（再掲）
p280	【図 表】	県内・国内外国人留学生数推移
p280	〔専門家の意見〕	関西に残りたいという人は実は留学生に多い（時代潮流研究会「世界の中の兵庫」ユニット）
p280	= 事 例 =	経済連携協定（EPA）に基づく看護師・介護福祉士候補者の受入れ
p281	【図 表】	日本語教育機関の全国シェア
p281	〔専門家の意見〕	日本語学校で学んでから大学に入学する留学生（ひょうご大学連携推進協議会）
p281	= 事 例 =	留学生と企業等を結ぶ留学生インターンシップ事業の展開
p281	= 事 例 =	留学生の就職活動を支援するNPO法人
p281	〔県民の意見〕	高度技術者を日本企業に派遣する業務にシフトしたい（県内技術者育成企業）

(2) 貢献と交流の広がりによって、世界と兵庫が双方向に結ばれている

p282	= 事 例 =	実大三次元震動破壊実験施設（E-ディフェンス）（三木）
p282	= 事 例 =	科学技術基盤を防災・減災に生かす
p282	【図 表】	環境産業の市場規模の推移（全国）
p283	= 事 例 =	微生物による廃水浄化技術（川西）
p283	= 事 例 =	世界最大級の太陽電池モジュール（姫路）（再掲）
p283	〔県民の意見〕	「環境融資」に取り組む兵庫県の銀行（県内の廃油回収・食品リサイクル企業）
p283	【図 表】	2020、30年度の全世界太陽光発電導入量予測（世界）
p283	【図 表】	国内の国際会議開催状況
p284	【図 表】	国際協力に取り組む県内NPO法人数の推移
p284	【図 表】	国際協力に取り組むNPO法人の地域別設立状況（2009年度）
p284	= 事 例 =	神戸発「まけないぞう」を全世界へ（神戸）
p285	= 事 例 =	「有機の里」に世界が学ぶ（丹波）
p285	= 事 例 =	ブラジルパラナ湾沿岸における環境モニタリングシステム

(3) 国際市場の一体化・分業化の中で、兵庫の産業の存在感が高まっている

p286	【図 表】	輸出入総額の推移（兵庫県）
p286	【図 表】	主要輸出品目（2009年（平成21年）兵庫県）
p286	【図 表】	神戸港の相手先別輸出入額の推移（平成16～22年）
p286	〔県民の意見〕	日本企業の研究開発はまだ強い（県内企業）

p287	【図表】	世界各国の人口に占める15～64歳人口比率の推移
p287	=事例=	成長分野で世界にはばたく企業(神戸)
p287	=事例=	関西広域バイオクラスタープロジェクト
p288	〔県民の意見〕	欧州企業との接点を重要視している(県内企業)
p288	【図表】	製造業輸出額の推移(兵庫県)
p288	=事例=	小型モーターで世界のトップ企業に(加西)
p288	=事例=	産業拠点としての兵庫の魅力を海外でPR

(4) 兵庫の暮らしが世界に開かれ、多文化共生が実現している

p289	【図表】	子ども多文化共生サポーター派遣状況
p289	=事例=	NPOによる日本語教室
p289	=事例=	外国の子どもたちのための進路ガイダンスと仲間づくりの会
p290	=事例=	地域と連携した取組を展開するNGO
p290	【図表】	外国人医師数の都道府県別比較(平成20年12月末現在)
p290	=事例=	NGOの取組(県内)
p290	=事例=	医療通訳システム(神奈川)
p291	【図表】	アジアの海外駐在者が住みたい都市ランキング
p291	=事例=	外国とゆかりが深い六甲山
p291	〔県民の意見〕	コスモポリタンな雰囲気を持ち、まちがきれいな神戸(県内会員制スポーツクラブ代表)
p291	〔県民の意見〕	「生活の質」という点で優れた神戸、兵庫県(県内外資系企業代表)

(5) 地域資源を生かしたツーリズムによる交流が広がっている

p292	【図表】	県内外国人旅行者数の推移
p292	【図表】	地域別観光客入込数の推移(兵庫県)

(6) アジアの結節機能を担う交通・物流ネットワークが充実している

p294	【図表】	神戸港 輸出入貨物の地域別・国別構成比 2009年(平成21年)
p295	【図表】	港湾別外貿コンテナ取扱個数ランキング(2010年(平成22年)速報値)
p295	〔県民の意見〕	物流のチャンネルが豊富な兵庫県(県内食品リサイクル企業)

21世紀兵庫長期ビジョン
2040年への協働戦略
全県ビジョン

〔 策定 2011年（平成23年）12月 〕

事務局（連絡先）：企画県民部ビジョン課

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

電話：078-341-7711（代）

FAX：078-362-3950

E-mail：vision@pref.hyogo.lg.jp

ホームページ：http://web.pref.hyogo.jp/pref/cate3_615.html